

平成28年度 研究紀要

共に感じ 共に楽しみながら
心むすぶ音楽を求めて

茨城県教育研究会音楽教育研究部

も く じ

○次期学習指導要領と研究テーマ ……………茨城県教育研究会音楽教育研究部長 仁平 良治

○これからの音楽科教育について ……………茨城県教育庁学校教育部義務教育課指導主事 川野 康子

○今年度の成果と課題 ……………研究推進委員長 櫻井 登代子

○歌唱専門部の成果と課題 ……………歌唱専門部長 阿須間 京子

○器楽専門部の成果と課題 ……………器楽専門部長 富永 ひろみ

○各ブロックから ……………
県北ブロック
中央ブロック
県東ブロック
県南ブロック
県西ブロック

※HPの容量の都合上、画質を落として掲載しています。

○第58回関東音楽教育研究会埼玉大会報告 ……………常任幹事 栗本真樹子

○編集後記

次期学習指導要領と研究テーマ

茨城県教育研究会音楽教育研究部長 仁平 良治

【テーマ】 「共に感じ 共に楽しみながら 心むすぶ音楽を求めて」

本年度は県音研としては重点指定年度に当たり、昨年度設定した上記テーマに基づき、5つのブロックでそれぞれ研究協議会を開催することができました。県教研の業務の効率化・組織の活性化の視点により原則隔年とされた重点指定ですが、各市町村との連携を図りながら軌道に乗ってきた感があります。

さて、次期学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざす（「アクティブ・ラーニング」の視点）からの授業改善が求められています。文科省では『主体的・対話的・深い学びの視点』を次のように述べています。

- ① 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。
- ② 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。
- ③ 各教科等で習得した概念や考え方を活用した「見方・考え方」を働かせ、問いを見いだして解決したり、自己の考えを形成し表したり、思いを基に構想、創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

これら3つの視点を熟読し、県音研のテーマと照らし合わせてみると「共に」（主体的・能動的・協働的、対話的）「感じ」（見方・考え方、感性、知覚・感受、思考・判断）「楽しみ」（興味・関心、見通し、音楽のよさや美しさ、音楽的な諸要素、〔共通事項〕）「心むすぶ」（音楽を愛好する心情、豊かな情操、友達・集団のよさ、自己有用感）の一語一語に①～③の視点がしみ込んでいることがよく分かると思います。つまり、テーマを研究することが次期指導要領が求めている授業改善に直接つながるということです。

今後、平成34年度の関音研茨城大会に向けてテーマを具現化した様々な取り組みが県内各地で展開されることを期待します。

これからの音楽科教育について

茨城県教育庁学校教育部義務教育課指導主事 川野 康子

県音楽教育研究部におかれましては、数々の事業に大きな成果を上げられ、本県の音楽教育の充実のための原動力となっただいておりますことに深く感謝申し上げます。

今年度は各地区においてブロック音楽教育研究協議会が行われました。授業実践された先生はもちろん、その市町村の先生方が一つとなって、授業のねらいを達成するため、子供たちに身に付けさせたい力を確実なものとするため、どのような活動がよいのか授業の直前までよりよい実践を求め、検討を重ねて来られました。当日は素晴らしい発表、そして熱心な研究協議が行われました。このことは、参加者が音楽の指導に丁寧に向き合う機会となり、各ブロック全体における音楽科の指導力向上につながる大きな成果になったと考えます。

さて、昨年（平成28年）12月21日に中央教育審議会において次期学習指導要領に向けた答申が出されました。現行の学習指導要領の理念である「生きる力」を継承しつつ、次期学習指導要領では、「何ができるようになるか」という視点での教育課程の改善や指導の充実が求められています。また、今回の改訂のキーワードの一つである「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善の取組を進めていくことが述べられています。

この次期学習指導要領の実施に向けて、現行の学習指導要領のポイントを再確認するとともに、国の動向を見据え、現在取り組んでいることを着実に実行しながら、その取組の質を高める努力をしていくことが音楽科の指導における県全体のレベルアップにつながると考えています。

最後に、県音楽教育研究部のますますの御発展と部員の先生方のさらなる御活躍をお祈り申し上げます。

今年度の成果と課題

研究推進委員長 櫻井 登代子

「共に感じ 共に楽しみながら 心むすぶ音楽を求めて」の研究主題のもと、各ブロックにおいて研究会が開催され、無事終了いたしました。ご協力ありがとうございました。どの研究会におかれましても、様々な取り組みがなされ、新テーマに向かって一歩踏み出した研究がなされたことを実感いたしました。

6月28日の、研究推進委員会では、茨城県教育研修センター教科教育課指導主事の石川真裕美先生の講話をいただきました。また、研究推進委員によるグループ協議が行われ、「音楽のよさや美しさを感じ取り、思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりするには」をテーマとし、ブレインライティングやカテゴリーによる分類等の手法によって話し合いを行い、充実した研修をすることができました。

その研修を受けて、各ブロックの提案授業では、各郡市の研究推進委員を中心に、県音研のテーマを解釈しながらも次期学習指導要領が求めている授業改善に取り組み、素晴らしい発表がおこなわれました。

今後も、平成34年度の関音研茨城大会に向けて、ブロック間の情報交換を密にしながら、各ブロックで県音研の研究テーマに基づいた研究を推進できるよう努めていきたいと思っております。

歌唱専門部の成果と課題

歌唱専門部長 阿須間 京子

1 本年度の活動

○ 歌唱指導法研修会

- ・期 日 平成28年6月30日（木）
- ・会 場 小美玉市四季文化会館 みの〜れ 森のホール
- ・講 師 坂本かおる 先生
- ・参加者 92名

2 成果と課題

昨年度に引き続き、講師に坂本かおる先生をお招きし、毎日の授業にすぐに生かせる歌唱指導法について研修した。参加者からは「難しい理論などが無く、わかりやすく楽しい内容であり、声のつくり方や歌い方の具体的な方法を学ぶことができた」との感想が多数あった。講師の先生のパワフルで人を惹きつける実践的なご指導に、参加者は終始笑顔で指導法について学ぶことができた。また、「実際に音楽の授業で研修した内容を実践したところ、一回で見違えるほど歌声に変化があった」などの報告もあり、大変有意義な研修となった。

一方、開催場所を確保する関係上、開催時期が第1学期末となってしまった。中学校の総合体育大会と重なる地区もあるため、今後は、できるだけ多くの方が参加できる開催時期について検討したい。

器楽専門部の成果と課題

器楽専門部長 富永 ひろみ

1 本年度の活動

(1) 器楽指導法並びに小学校管楽器教育指導者研修会（受講生：約100名）

- ・期 日 平成28年8月17日（水）
- ・会 場 茨城大学教育学部附属小学校
- ・内 容 リコーダー 和楽器 器楽合奏 コンピューターミュージック
金管楽器 打楽器

(2) リコーダーコンテストフェスティバル

- ・期 日 平成29年2月10日（金）
- ・会 場 市民ホールとよさと（つくば市）
- ・参加校 中学校重奏の部 6校8グループ 中学校合奏の部 1校1グループ
小学校重奏の部 2校2グループ 小学校合奏の部 7校8グループ

2 成果と課題

器楽指導法研修会では、講師の先生方の熱心な指導で充実した研修が行われた。また、授業に即役立つ内容で、指導法の幅を広げることができた。リコーダーコンテストフェスティバルでは、担当の先生方の支援を受けて、児童生徒の発表の機会の充実を図ることができた。

平成28年度 県北ブロック音楽教育研究協議会

「共に感じ 共に楽しみながら 心むすぶ音楽を求めて」
～ 輝こう 音楽で ～

平成28年10月21日(金)
北茨城市立精華小学校(小学校の部)
北茨城市立磯原中学校(中学校の部)

主催

茨城県教育研究会音楽教育研究部
県北ブロック音楽教育研究部
北茨城市教育研究会音楽教育研究部

開催要項

- 1 主催 茨城県教育研究会音楽教育研究部
同 県北ブロック音楽教育研究部
同 北茨城市教育研究会音楽教育研究部
- 2 期 日 平成28年10月21日(金)
- 3 研究主題 『共に感じ 共に楽しみながら 心むすぶ音楽を求めて』
～輝こう 音楽で～
- 4 講師 ○小学校部会 川野 康子 先生 (茨城県教育庁義務教育課 指導主事)
○中学校部会 花田 喜龍 先生 (茨城県日立市立大みか小学校教諭)
- 5 会 場 ○小学校部会 北茨城市立精華小学校
〒319-1541 北茨城市磯原町磯原4-36
Tel 0293-42-0328
○中学校部会 北茨城市立磯原中学校
〒319-1543 北茨城市磯原町豊田556
Tel 0293-46-0116

6 日 程

※ 北茨城市立精華小学校

13:15~13:35 受付	13:50~14:35 研究授業	14:35~14:50 休憩	14:50~16:30 分科会
-------------------	---------------------	-------------------	--------------------

※ 北茨城市磯原中学校

13:15~13:35 受付	13:40~14:30 研究授業	14:30~14:45 休憩	14:45~16:25 分科会
-------------------	---------------------	-------------------	--------------------

7 公開授業

学 校	学年・組	題 材	授業者	場 所
精華小	3年1組	日本の音楽に親しもう	菊地 舞	3年1組
	5年1組	曲想を味わおう	加藤 知子	5年1組
磯原中	2年1組	混声合唱の響きを味わおう	沼田 宏輝	音楽室

8 研究協議

※小学校部会：北茨城市立精華小学校

※中学校部会：北茨城市立磯原中学校

分科会	場 所	司 会 者	記 録 者	世 話 係
小学校	5年学習室	和田 エリ 常陸太田市立太田小学校	中島 有紀子 常陸太田市立世矢小学校	橋本 睦子 北茨城市立明德小学校
中学校	図書室	加藤 勝弘 日立市立多賀中学校	黒羽 一恵 日立市立中里中学校	奥田 鮎美 北茨城市立常北中学校

1 題材名 日本の音楽に親しもう

2 題材の目標

- お囃子で使われる楽器の音色や旋律に興味・関心をもち、郷土に伝わる音楽がもつ曲想を感じ取りながら、旋律をつくる学習に進んで取り組む。(音楽への関心・意欲・態度)
- 旋律やフレーズの音の響きや組み合わせを楽しみながら、3つの音を使って、どのような旋律をつくるかについて思いや意図をもって表現する。(音楽表現の創意工夫)
- 3つの音を組み合わせせて簡単な旋律をつくり、リコーダーで演奏する。(音楽表現の技能)
- お囃子で使われている楽器の音色やリズム、速度、旋律の特徴などを聴き取り、それらの違いを発表するなどして、郷土の音楽のよさを味わって聴く。(鑑賞の能力)

3 主な〔共通事項〕

(ア) リズム、旋律

(イ) 反復、変化


4 題材設定にあたって

(1) 題材について

本題材は、学習指導要領の第3学年及び第4学年のA表現の(3)音楽づくりのイ「音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、思いや意図をもって音楽をつくること。」とB鑑賞の(1)ウ「楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさに気付くこと。」を受けて取り扱ったものである。

本題材では、古くから伝わる郷土の音楽のよさや特徴を感じ取り、その雰囲気を生かしながら、決まったリズムの中で、旋律をつくることの面白さを味わわせる。その中で、音の響きや組み合わせ方を工夫することで、思いや意図をもった音楽づくりをしていくことをねらいとしている。

(2) 児童の実態 (児童数 男13人 女15人 計28人) 調査日 7月20日実施

質問事項	回 答 (人)	
・音楽は好きですか。	はい 22	いいえ 6
理由(複数回答)	○ 「はい」の理由	・楽器を演奏することが好きだから 18 ・音楽を聴くことが好きだから 13 ・歌を歌うことが好きだから 10 ・音楽の学習が楽しいから 8
	○ 「いいえ」の理由	・歌を歌うことが苦手だから 4 ・楽器を演奏することが苦手だから 3
・音楽の授業ではどんな活動が好きですか。(複数回答)	・リコーダーを演奏すること 18 ・音楽を聴くこと 15 ・歌を歌うこと 13 ・簡単な音楽づくりをすること 12	・鍵盤ハーモニカを演奏すること 16 ・身体表現をすること 14 ・打楽器を演奏すること 12
・この音符は何ですか。 	○ 名前「四分音符」 ・正答 17 ・誤答 9 ・無回答 2	○ 長さ「1拍」 ・正答 9 ・誤答 17 ・無回答 2

本学級は、「音楽が好き」と答える児童が多い。これらの児童は、演奏したり、歌を歌ったり、音楽を聴いて感じたことを書いたりする音楽活動全般を好んでいる。授業の中でも成功体験を多く積んでおり、楽器の演奏や歌唱についても自信をもって取り組む様子が見られる。朝の歌の時間にも、きれいな声で歌ったり、歌詞に注目して表現豊かに歌ったりしている。また、3年生から始めたソプラノリコーダーの演奏についても、興味・関心が高く、「シ・ラ・ソ・ド・レ」は、ほとんどの児童が音を出せるようになってきている。

一方、「音楽が嫌い」と答える児童も若干名見られる。これらの児童は、歌を歌うことや楽器の演奏に苦手意識をもっており、鍵盤ハーモニカの指使いや歌唱での声の出し方・音程の取り方などに課題が見られる。ゆっくり自分のペースで演奏することは出来ても、みんなで合わせることに難しさを感じている児童もいる。

また、四分音符について質問してみたところ、名称は分かっているが、その音符がどのような仕組みをもつものなのか知らない児童が多く見られた。一番多く触れる機会の多い音符であるため、手立てを講じていきたい。

(3) 指導について

指導にあたっては、まず昔から伝わるお囃子3曲を聴き比べることで、楽器の音色やリズム、旋律の面白さなど我が国の音楽の特徴や雰囲気を感じ取ることができるようにする。また、日本全国にはその地域ごとに伝わる音楽があることにも触れ、写真や映像、実際に使っている楽器を用いて紹介していきたい。その中で、北茨城の「御船祭」のお囃子も紹介し、郷土のお祭りについて親しみがもてるようにする。

次に、その音楽の雰囲気を意識しながら、自分たちで自由に「ラ・ド・レ」の3音を組み合わせ、旋律をつくっていく活動を行う。旋律づくりでは、決まった簡単なリズムを使い、苦手な児童も抵抗なく進めていけるようにする。常時活動としてリズムや「ラ・ド・レ」を用いた旋律の模倣遊び「おはやし音遊び」を行うことで、正確なリズムがとれるようにするとともに、「ラ・ド・レ」をスムーズにリコーダーで吹けるようにしていきたい。

本時では、前時でつくった2小節の旋律には、「つづく感じ」と「終わる感じ」の2種類があることに気付かせる。それを手がかりにして、各自でつくった旋律をつなぎ方や順番を組み替えながら、グループでまとまりのある音楽につくり上げていく。まとまりのある音楽をつくる過程で、視聴覚機材を活用しながらお囃子に慣れ親しませ、自分達はどんなお囃子をつくりたいか、思いをもたせるようにする。また、ジャンプ課題を設定することで、音符の仕組みについても触れられるようにしていく。

これらの活動を通して、我が国の音楽の雰囲気を感じながら、思いや意図をもって楽しく音楽づくりに取り組むことができるようにしたい。

鑑賞教材

- ・「神田囃子」(東京都)、「花輪ばやし」(秋田県)、「小倉祇園太鼓」(福岡県) 教育芸術社「小学生の音楽3」
- ・「祇園囃子」(京都府) NHKエンタープライズ「京都・祇園祭」
- ・「御船祭のお囃子」(茨城県)

(4) 平成28年度学校教育指導方針との関連

- 思いや意図をもって表現したり、味わって聴いたりする力の育成
- ・音楽の仕組みを生かして、音を音楽へと構成していく力を高める音楽づくりの指導の充実

5 題材の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
①お囃子で使われる楽器の音色や旋律に興味・関心をもち、郷土に伝わる音楽がもつ曲想を感じ取りながら、旋律をつくる学習に進んで取り組もうとしている。	①旋律やフレーズの音の響きや組み合わせを楽しみながら、3つの音を使って、どのような旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。	①ラ・ド・レの3つの音を組み合わせる簡単な旋律をつくり、リコーダーで演奏している。	①お囃子で使われている楽器の音色やリズム、旋律の特徴などを聴き取り、それらの違いを發表するなどして、郷土の音楽のよさを味わって聴いている。

6 指導と評価の計画(4時間扱い)

鑑賞教材

次	ねらい	主な学習活動	[共通事項]	評価規準
第1次 (1)	○ 鑑賞を通して、お囃子の楽器の音色やリズム、速度、旋律の特徴などの楽しさを感じ取る。	● 「神田囃子」「花輪ばやし」「小倉祇園太鼓」 ・3曲のお囃子でどんな楽器が使われているか想像する。 ・それぞれのお囃子の音色・リズム・速度・旋律の特徴などの違いを聞き比べる。	・リズム ・旋律 ・反復	アー① 観察 エー① 観察 ワークシート
第2次 (2) 本時は 第2時	○ ラ・ド・レの3つの音を組み合わせる簡単な旋律をつくる。 ○ 思いや意図をもって、旋律を工夫しながら、お囃子らしいまとまりのある音楽をつくる。	● 「祇園囃子」 ・お囃子音遊びをして、リズムを感じ取る。 ・ラ・ド・レの3つの音と「旋律をつくるリズム」を使い、2小節の旋律をつくる。 ● 「御船祭のお囃子」 ・各自つくった旋律を組み合わせる、思いや意図をもって、まとまりのある音楽をつくる。 ・つくった音楽をリコーダーで練習する。	・旋律 ・反復 ・旋律 ・反復 ・変化	ウー① 観察 ワークシート イー① 観察 発表 ワークシート
第3次 (1)	○ 太鼓のリズム伴奏に合わせてながら、グループのお囃子をリコーダーで演奏する。	・和太鼓を使って、リズム伴奏の練習をする。 ・「日本一のおはやし発表会」を行い、グループでつくったお囃子を発表し合う。	・リズム ・旋律 ・反復 ・変化	ウー① 観察 発表 ワークシート

7 本時の学習

(1) 目標

- お囃子らしい音楽の仕組みを楽しみながら、思いや意図をもってまとまりのある音楽をつくることができる。

(2) 準備・資料

楽譜、ソプラノリコーダー、活動手順カード、グループ活動シート(青・ピンク・黄緑・オレンジ)、振り返りシート、音楽のもと(掲示用)、液晶テレビ、DVDプレイヤー、CDプレイヤー、iPad、リズム伴奏CD

(3) 展開

学習内容・活動	教師の援助・評価 (◎は評価規準・方法)
<p>1 前時の学習を振り返る。 ・前時につくった旋律について確認する。</p> <p>2 本時の学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>日本一のおはやしをみんなでかんせいさせよう。</p> </div> <p>3 グループごとに旋律のつなぎ方を工夫する。 (1) 「おはやしのつくり方」を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・どんなおはやしにする? () 感じ ・4分の4びょうしのリズム ・一人2小せつ→全部で8小せつにする。 ・さい後の人は「終わる感じ」にする。 </div> <p>(2) グループの音楽をつくる。 ・グループに分かれて音楽づくりをする。</p> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>4/4 ♩ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ </p> <p>ラ ラ レ ド レ レ レ ド レ ラ ド レ ラ ド レ</p> </div> <p>・できた音楽をリコーダーで練習する。</p> <p>(ジャンプ課題) ◎自分達のつくった音楽を楽ふにしてみよう。</p> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> </div> <p>4 いくつかのグループがつくったお囃子の演奏を聴き、良さを話し合う。</p> <p>5 本時のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちがつくった旋律をつないで、まとまりのある新たなお囃子をつくることを知らせ、創作意欲がもてるようにする。 ・北茨城の御船祭の映像を見せ、お囃子のイメージをもてるようにする。 ・「おはやしのつくり方」を1つずつ確認し、活動手順カードにも記載することで、見通しをもったグループ活動ができるようにする。 ・「音楽のもと」のキーワードをもとに、思いや意図をもった音楽づくりができるようにする。 ・前時につくった旋律を数人の児童にリコーダーで吹かせ、聞き比べることで、終わり方には「つづく感じ」「終わる感じ」があることに気づけるようにする。 ・意図的に編成した4人1グループで活動し、学び合いができるようにする。 ・音が混じり合わないよう、3つの教室を使って場を設定する。 ・4色に分けたグループ活動シートを用いることで、スムーズに話し合い活動が進められるようにする。 ・思うように活動が進まないグループには、iPadに録音したグッドモデルを聴かせて、自分たちの演奏を振り返ることができるようにする。 ◎ 旋律を自由に組み合わせる面白さに気づき、自分の思いや意図をもってまとまりのある音楽をつくることのできたか。(観察・ワークシート) ・練習をすることで、まとまりのある音楽をつくることのできたか確認するようにする。 ・児童の思いに合うようなリズム伴奏(速い・遅い・伴奏あり等)を準備する。 ・リコーダーを吹くことが苦手な児童には、教師が寄り添って、一緒に音を出せるように支援する。 ・早く終わったグループには、ジャンプ課題をするように声かけをする。 ・他のグループの演奏を聴いて、良いところ・気付いたことを交流できるようにする。 ・自分の言葉でまとまりのある音楽づくりについて振り返り、次時への意欲へつなげる。

1 題材名 曲想を味わおう

2 題材の目標

- 旋律や音の重なり、反復と変化、音楽の縦と横の関係によってつくられる楽曲の構造に関心をもって聴いたり歌ったりする学習に取り組む。
(音楽への関心・意欲・態度)
- 旋律や音の重なり、反復と変化、音楽の縦と横の関係を聴き取り、曲想にふさわしい表現を工夫して、どのように歌うかについて自分の思いや意図をもつ。
(音楽表現の創意工夫)
- 旋律や音の重なり、反復と変化、音楽の縦と横の関係を聴き合い、曲想の変化を味わいながら歌う。
(音楽表現の技能)
- 旋律や音の重なり、反復と変化、音楽の縦と横の関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、楽曲の構造に気を付けて聴く。
(鑑賞の能力)

3 主な〔共通事項〕

- (ア) 旋律、音の重なり
- (イ) 反復と変化、音楽の縦と横の関係

4 題材設定にあたって

(1) 題材について

本題材は、学習指導要領の第5学年及び6学年の B 鑑賞の(1)ア「曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴くこと。」イ「音楽を形づくっている要素のかかり合いを感じ取り、楽曲の構造を理解して聴くこと。」と A 表現の(1)イ「歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。」を受けて取り扱ったものである。

ここでは、それぞれの音楽を形づくっている要素(旋律、音の重なり、反復と変化、音楽の縦と横の関係)のかかり合いに気付き、曲想を感じ取って、音楽を想像豊かに聴いたり、思いや意図をもって表現の仕方を工夫したりすることをねらいとしている。そのため、第1次では、鑑賞活動において曲想について「なぜ」と「だから」を自分たちで発見し、その力が第2次の歌唱活動につながるようにしていく。

(2) 児童の実態 (児童数 男21人 女 13人 計34人)

調査日 7月14日実施

質問事項	回答(人)	
・音楽の授業で「音楽を聴く活動(鑑賞)」は好きですか。	はい 26	いいえ 8
・音楽(曲)を聴く時に、何に気をつけて聴いていますか。 (複数回答)	<ul style="list-style-type: none"> ・旋律 2 ・リズム 11 ・強弱 27 ・音の響き 1 ・曲のはじめと終わり(曲の構成) 6 ・明るい感じ、暗い感じ(曲の気分) 26 ・くり返し(反復) 6 ・曲の変化 16 ・音楽のたてと横の関係 0 	<ul style="list-style-type: none"> ・音色 6 ・速さ(速度) 26 ・音の重なり 3 ・フレーズ 0
・楽譜をみて、リズムを打つことができますか。	はい 12	いいえ 22

本学級の児童は、音楽活動への意欲が高く、毎時間生き生きと活動することができる。1学期に行った「リズムを選んでアンサンブル」(教材「リボンのおどり」)では、5人グループでリズム創作し、音の重なりや反復、音楽の縦と横の関係に焦点をおいて活動をした。どのグループも題材のねらいに沿って活動をし、オリジナルなリズムアンサンブルをすることができた。しかし、実態調査からは、創作活動にて学んだことを鑑賞活動においては意識できていないことが見えた。また、楽譜への関心が低く、普段の活動でも楽譜に書かれた音符を音や声にすることが苦手で、表現活動における読譜に時間がかかる傾向があったが、調査からも読譜と音楽活動が連動していないことがわかった。

(3) 指導について

指導にあたっては、まず教材曲である「威風堂々」の主な旋律やフレーズの反復、アの部分とイの部分それぞれの曲想の違いや曲想の変化を聴き取る。また、読譜を苦手とする児童に、楽譜にはたくさんの秘密があることを気付かせるため、オーケストラ用フルスコアを活用し、音の重なりや音楽の縦と横の関係を耳と目で確かめる。その過程の中で、旋律、音の重なり、反復と変化、音楽の縦と横の関係がかかり合い、一体となって醸し出す曲の面白さや素晴らしいさを感じ取ったり、味わったりしたことを言葉で表出できるように楽曲分析用ワークシートを活用していく。これらの一連の鑑賞活動が、朝の時間にパート練習を重ねてきた合唱曲「ボクらの時代」を使って行う第2次の活動において、第1次で行った秘密の見つけ方を生かして、曲の前半と後半の曲想の変化を感じたり、音の重なりを意識した表現の工夫をしたりする。更には、合唱曲の縦と横(伴奏も含め)の面白さを自分たちなりに分析し、思いや意図

をもって表現できるよう繋げる。

本時は、学級児童約8割が好きと答えた鑑賞活動において、楽譜を活用した音楽の聴き方と出合わせることで、音楽を知る出発点でもある楽譜の役割に気付かせ、より質の高い活動に結び付ける。また、協働的な学習を取り入れ、自分の意見と友達の見解を比較したり、共有したりすることを通して、楽曲のよさや面白さに気付けるような学習にする。さらに、「終わりの常時活動」では、演奏形態、編曲が違った「威風堂々」を鑑賞することで、学習した「威風堂々」との比較鑑賞を通して、原曲と違った雰囲気を感じさせ、振り返りとする。これらの積み重ねが、音楽を聴く楽しさにつながるよう意識したい。

<鑑賞教材>

- ・「威風堂々 第1番」 (エルガー 作曲)
- ・「愛のあいさつ」 (エルガー 作曲)
- ・「いふうどうどう de SKA？」 (NHK Eテレ「おんがくブラボー」テーマ曲)

<歌唱教材>

- ・「ボクらの時代」 (里乃塚玲央 作詞, 西澤健治 作曲)

(4) 平成28年度学校教育指導方針との関連

- 思いや意図をもって表現したり、味わって聴いたりする力の育成
 - ・言語活動等を適切に取り入れ、児童の音楽表現や鑑賞の学習の質を高める協働的な学習の充実

5 題材の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
①旋律や音の重なり、反復と変化、音楽の縦と横の関係によってつくられる楽曲の構造に関心をもって聴く学習に取り組もうとしている。 ②曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌う学習に取り組もうとしている。	①旋律や音の重なり、反復、音楽の縦と横の関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取る。 ②曲想の変化に合う表現を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えや願い、意図をもって歌う。	①旋律や音の重なり、反復と変化、音楽の縦と横の関係を聴き合い、曲想の変化を味わいながら歌っている。	①音楽を特徴付けている要素と音楽の仕組みの関わり合いによってつくられる楽曲の構造に気を付けて聴いている。 ②旋律や音の重なり、反復と変化、音楽の縦と横の関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、聴いている。

6 指導と評価の計画 (4時間扱)

㊦ 歌唱教材 ㊧ 鑑賞教材

次	ねらい	主な学習活動	[共通事項]	題材の評価規準と評価
第1次 (2) 本時は 第2時	○ 「威風堂々」を聴き、音楽を特徴付けている要素と仕組みの関わり合いによってつくられる楽曲の構造に関心をもって聴く。	㊦ 「威風堂々 第1番」 ㊧ 「愛のあいさつ」 ・楽曲全体の感じをつかむ。 ・アとイの曲想の感じの違いについて気付く。	・ 旋律 ・ 音の重なり ・ 反復と変化	アー① 観察 振り返りカード エー① ワークシート
	○ 「威風堂々」の旋律や音の重なり、反復と変化、音楽の縦と横の関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら聴く。	㊦ 「威風堂々 第1番」 ㊧ 「いふうどうどう de SKA？」 ・アとイが繰り返されながら変化していく様子を味わって聴く。 ・楽譜から音の重なりや音楽の縦と横の関係など楽曲の構造に関心をもって聴く。		イー① 観察 振り返りカード エー② 観察 ワークシート
第2次 (2)	○ 「ボクらの時代」の曲想の変化に合う表現を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えをもつ。	㊦ 「ボクらの時代」 ・楽譜から旋律の動き、音の重なりや音楽の縦と横の関係など楽曲の構造に気付き、どのように歌うか考える。	・ 音楽の縦と横の関係	アー② 観察 振り返りカード イー② ワークシート
	○ 「ボクらの時代」の曲想の変化を味わいながら歌う。	㊦ 「ボクらの時代」 ・自分の考えを声で表現できるよう練習する。 ・一人一人の思いを大切にしながら合唱する。		アー② 観察 振り返りカード ウー① 発表

7 本時の学習

(1) 目標

- 旋律や音の重なり、反復と変化、音楽の縦と横の関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを
感じ取りながら、聴くことができる。

(2) 準備・資料

電子オルガン、威風堂々オーケストラ用フルスコア、ワークシート、板書用拡大スコア、タイマー、ipad、TV、
付箋紙、ラジカセ、CD 3 種類（教材用「威風堂々」、威風堂々とイ部分的 CD、終わりの常時活動用 CD）

(3) 展開

学習内容・活動	教師の援助・評価（◎は評価規準・方法）														
<p>1 導入時の常時活動（はじめのあいさつ）</p> <p>2 本時の学習のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>耳と目を使って、フルスコアから「威風堂々」の秘密をさぐろう</p> </div> <p>3 鑑賞活動①</p> <p>(1) アの主となる旋律が繰り返されながら、どのように変化しているかを聴く。 (教師作成部分的 CD 使用)</p> <p>(2) 学級全体でフルスコアから秘密を探る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アー旋律①と①[˘] ・アー旋律②と②[˘] ・1回目アと2回目ア ・序奏（時間がある時） <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>音の重なり 反復と変化 音楽の縦と横の関係</p> </div> <p><予想される児童の発言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ音楽に聴こえるけど、楽譜ではちがう。 ・あまり変化がない。 <p>(3) 気付いたことを発表し、学級全体で共有する。</p> <p>4 鑑賞活動②</p> <p>(1) イの主となる旋律が繰り返されながら、どのように変化しているかを聴く。 (教師作成部分的 CD 使用)</p> <p>(2) グループになり前半の学習をまねながら秘密を探り、気付いたことを付箋紙に書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1回目イ①と② ・1回目イ②と2回目イ ・1回目イと2回目イ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>音の重なり 反復と変化 音楽の縦と横の 関係</p> </div> <p><予想される児童の発言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・くり返されながら楽器の数が多くなっている。 ・打楽器が入ると音楽が華やかになる。 <p>(3) 終わったグループはジャンプ課題に挑戦する。</p> <p><予想される児童の発言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ楽器が使われているのに、アとイは雰囲気がちがう。 ・アには細かな音符がたくさんあるがイにはほとんどないから聴こえ方がちがうのでは。 <p>(4) 各グループで見つけた秘密を共有する。</p> <p>5 終わりの常時活動（今日の1曲） 「いふうどうどう de SKA?」</p>	<p>・ I→V(V7)→I の3和音を鳴らし、挨拶をする。</p> <p>・ 鑑賞活動①は全体での活動、鑑賞活動②はグループでの活動とする。そのため、それぞれの活動のねらいを明確に伝えるようにする。</p> <p>・ フルスコアに戸惑わないよう楽器、音域について触れる。</p> <p>・ 旋律と伴奏系をマーカーし、視覚的に捉えられるようにする。（旋律→黄色 伴奏系→ピンク）</p> <p>・ 部分的 CD で、アー旋律①と①[˘]、次にアー旋律②と②[˘]、次に1回目アと2回目アの部分だけを聴き、反復されながら、音の重なりや音楽の縦と横の関係がどのように変化しているかに気付かせる。</p> <p>・ 教師側が気付かせたいポイント</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">アー①と①[˘]</td> <td style="padding: 2px;">V_nの音の高さ、伴奏楽器の数</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">アー②と②[˘]</td> <td style="padding: 2px;">低音楽器の役割</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">1回目アと2回目ア</td> <td style="padding: 2px;">繰り返さない理由、32分音符の役割</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">序奏</td> <td style="padding: 2px;">接続のための小節の教、強弱</td> </tr> </table> <p>◎ 主な旋律や音の重なり、反復と変化などの関わり合いによって生み出すよさや面白さなどを感じ取っている。 (観察・振り返りカード)</p> <p>・ フルスコアを基に秘密をさぐるため、机上の整理を促す。</p> <p>・ 活動②に入る前に、グループ活動の約束を確認する。</p> <p>・ 部分的 CD で1回目のイ①と②、1回目のイ②と2回目のイ、1回目のイ（全体）と2回目のイの部分だけを聴き、反復されながら、音の重なりや音楽の縦と横の関係がどのように変化しているか気付いた事を付箋紙に書くよう助言する。</p> <p>・ 教師が気付かせたいポイント</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">1回目イ①と②</td> <td style="padding: 2px;">反復と音の重なり（楽器数）</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">1回目イ②と2回目イ</td> <td style="padding: 2px;">旋律楽器の数、打楽器の効果</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">1回目イと2回目イ</td> <td style="padding: 2px;">音楽の縦の関係</td> </tr> </table> <p>◎ 主な旋律や音の重なり、反復と変化、音楽の縦と横の関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら聴くことができる。 (観察・ワークシート)</p> <p>・ ジャンプ課題に取り組むグループには、以下のことを問いかける。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>アとイの曲思のちがい（前時で感じたことを楽譜で照合）</p> <p>音の重なりと強弱の関係、音符の数と速度の関係、</p> <p>楽器の特徴と音楽にも秘密があるか？</p> </div> <p>・ ジャンプ課題に取り組んだグループからも気付いたことを発表し、深まりのある活動にする。</p> <p>・ 演奏形態の異なる「威風堂々」を鑑賞し、原曲と違った雰囲気を味わわせる。</p>	アー①と① [˘]	V _n の音の高さ、伴奏楽器の数	アー②と② [˘]	低音楽器の役割	1回目アと2回目ア	繰り返さない理由、32分音符の役割	序奏	接続のための小節の教、強弱	1回目イ①と②	反復と音の重なり（楽器数）	1回目イ②と2回目イ	旋律楽器の数、打楽器の効果	1回目イと2回目イ	音楽の縦の関係
アー①と① [˘]	V _n の音の高さ、伴奏楽器の数														
アー②と② [˘]	低音楽器の役割														
1回目アと2回目ア	繰り返さない理由、32分音符の役割														
序奏	接続のための小節の教、強弱														
1回目イ①と②	反復と音の重なり（楽器数）														
1回目イ②と2回目イ	旋律楽器の数、打楽器の効果														
1回目イと2回目イ	音楽の縦の関係														

1 題材 混声合唱の響きを味わおう

2 題材の目標

- 歌詞の内容や曲想に関心を持ち、音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組む。
(音楽への関心・意欲・態度)
- 歌詞の内容や曲想を味わい、思いや意図をもって曲にふさわしい音楽表現を工夫する。
(音楽表現の創意工夫)
- 歌詞の内容や曲想を生かした音楽表現をするために必要な発声、発音、呼吸法などの技能を身に付けて歌う。
(音楽表現の技能)

3 主な〔共通事項〕 リズム、旋律、テクスチャ、強弱、構成

4 題材設定にあたって

(1) 題材について

本題材では、歌詞の内容や曲想を味わい、思いや意図をもって曲にふさわしい音楽表現を工夫することをねらいとしている。曲にふさわしい表現の方法を見いだして演奏するには、旋律、強弱、構成などの表現活動の支えとなる要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、歌い方を工夫する活動が考えられる。曲にふさわしい表現を工夫し、仲間と合唱をつくりあげることで、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てていきたいと考え、本題材を設定した。教材曲「エール～君の空～」は、各パートとも歌いやすい音域で構成されており、後半の三部合唱では各パートが美しく重なり、混声三部合唱の醍醐味を味わうことができる魅力ある作品である。後半にむかって盛り上がっていく曲想や、歌詞の内容とリズム、強弱とのかかわりなど、表現の工夫を考えることも容易であり、学習効果の高い楽曲である。

(2) 生徒の実態

合唱に関するアンケート (平成28年7月20日 調査人数36名)	
1 合唱の練習では、他の人と協力したり、助け合ったりしながら活動していますか。	はい 27名 どちらとも言えない 9名 いいえ 0名
2 合唱するときどんなことに気をつけていますか。(複数回答可)	正確な音程で歌うこと 27名 強弱をつけること 22名 大きな声で歌うこと 20名 姿勢や口の開け方 17名 歌詞の発音 15名 美しいハーモニーをつくること 14名 美しい発声 13名 拍子や速度 7名 歌詞の内容を考えて歌うこと 7名 曲の構成や特徴にあわせて歌うこと 6名 歌うことに精一杯でありあまり考えて歌っていない 2名
3 「エール～君の空～」をどのように歌いたいですか。(自由記述)	歌詞の意味を考えて歌いたい。 強弱などの表現をつけて歌いたい。 音程に気をつけて歌いたい。 曲の雰囲気を出せるように歌いたい。 美しいハーモニーで歌いたい。 曲の特徴を生かして歌いたい。

アンケートの結果から、本学級の生徒は仲間と協力して意欲的に合唱に取り組んでいる生徒が多い。また、合唱をする際には、正確な音程で歌うことや強弱をつけること、大きな声で歌うことを意識している生徒が多く見られる。教材曲「エール～君の空～」については、歌詞の内容を考えて歌いたいという思いをもっている生徒が多かったが、実際に日頃から歌詞の内容まで意識して合唱している生徒は男女ともに少ない。また、曲の構成や特徴にあわせて歌うことを意識している生徒も少ない傾向にある。そのため、歌詞の内容や曲想を味わい、思いや意図をもって曲にふさわしい表現を工夫していけるようにしたいと考える。

(3) 指導について

指導に当たっては、歌詞の内容や曲の構成を理解したり、どうしてそのような強弱になるのか根拠を考えたりするなどの楽曲分析を通して、生徒自身の手で曲にふさわしい表現を考えられるようにしたいと考える。また、旋律、強弱、構成などの表現活動の支えとなる要素をよりどころとして、曲にふさわしい表現の工夫へと導いていきたい。そして、全員で1つの音楽をつくっていく体験を通して、表現したいイメージを伝え合ったり、協同する喜びを感じたりできるよう、話し合い活動や練り上げを充実させていきたいと考える。

(歌唱教材)

- ・「エール～君の空～」 (里乃塚 玲央 作詞, 瑞木 薫 作曲)

(4) 平成28年度学校教育指導方針との関連

- 感性を高め、思考・判断し表現する一連の学習過程の充実
 - ・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きによって生み出す特質や雰囲気を感じ取る力を育む指導の工夫
 - ・言語活動を適切に取り入れ、生徒の音楽表現や鑑賞の学習の質を高める協働的な学習の充実

5 題材の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
① 歌詞が表す情景や心情、曲の表情や味わいに関心を持ち、曲にふさわしい音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	① リズム、旋律、テクスチャ、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、歌詞が表す情景や心情、曲の表情や味わいを感じ取って音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図を持っている。	① 歌詞が表す情景や心情、曲の表情や味わいを生かした曲にふさわしい音楽表現をするために必要な、発声、言葉の発音、呼吸法などの技能を身に付けて歌っている。

6 指導と評価の計画（6時間扱い）

次	ねらい	主な学習活動	[共通事項]	題材の評価規準と評価方法
第1次 (2)	○ 正確な音程とリズムで歌唱する。	・ 範唱CDを聴き、音程とリズムを意識して、パートごとに歌唱練習を行う。	・ リズム ・ 旋律 ・ テクスチャ	アー① 観察、ワークシート
	○ 他の声部の響きを感じながら合唱する。	・ 他の声部を聴きながら、ハーモニーの重なりを意識して合唱する。		アー① 観察、ワークシート
第2次 (3) 本時は 第2時	○ 歌詞の内容を味わい、イメージをもって合唱する。	・ 歌詞から読み取れることや曲のイメージを全体でまとめ、それらをもとに合唱する。	・ リズム ・ 旋律 ・ テクスチャ ・ 強弱 ・ 構成	アー① 観察、ワークシート
	○ 曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して合唱する。	・ 曲想を味わい、曲にふさわしい表現の工夫について話し合い、思いや意図をもって合唱する。		イー① 観察、ワークシート
	○ 工夫点を意図的に表現して、聴き手に伝わる合唱をする。	・ 合唱を録画し、創意工夫を生かした表現ができているか客観的に確認し、よりよい表現を考える。		イー① 観察、ワークシート
第3次 (1)	○ 音楽表現をするために必要な技能を身に付けて合唱する。	・ これまでの学習を生かし、曲にふさわしい音楽表現を工夫した合唱を人前で発表する。 ・ 個別に歌唱テストを行う。		ウー① 観察、発表、歌唱テスト

7 本時の学習

(1) 目標

- 曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して合唱する。

(2) 準備・資料

楽譜、拡大楽譜、ワークシート

(3) 展開

学習内容・活動	教師の援助 (◎は評価規準・方法)
<p>1 本時の学習課題をつかむ。 曲の特徴を生かし、ふさわしい表現方法を考えて合唱しよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時では、曲にふさわしい表現方法を考えて合唱することが目標であることを伝える。
<p>2 全体で合唱し、前時までの学習内容を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・姿勢やのどの開け方に注意するよう指導する。 ・前時までに学習した音程とリズムに注意し、各パートが正しく歌えているかを確認する。
<p>3 曲の特徴を生かした表現方法を考え、合唱する。 (1) 曲の構成をふまえ、Cの部分で感じ取った曲想をワークシートに記入する。 (2) まとめたことを発表する。 (予想される生徒の考え) ・「わすれないで～」の部分は、ソプラノだけなので優しく美しく歌う。 ・「あきらめずに～」は、Dに向かって力強く歌う。 (3) 2つのグループに分かれて、相互評価しながら合唱する。 (予想される生徒の考え) ・「わすれないで～」は、響きのある美しい発声になるように、のどを開けて歌うようにした。 ・「あきらめずに～」は、長いクレシェンドを強調できるように、後半を一気に盛り上げて歌うようにした。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・曲の構成をふまえて、特徴を考えるよう指示する。 ・混声三部合唱になり、かけあいの部分や強弱の変化があるCの部分にポイントをしばって考えるよう促す。 ・生徒が自分の考えをまとめやすいようにワークシートを用意し、曲の特徴から感じ取った曲想を記入するよう指示する。 ・活動が進んでいない生徒には、曲想を表す言葉の一覧を提示し、ふさわしい言葉を探すよう助言する。 ◎曲想に関心をもち、曲にふさわしい表現を考えている。(観察、ワークシート) ・各パートを2つのグループに分け、生徒から出た意見をふまえて交互に合唱し、相互評価するよう伝える。 ・互いのグループの合唱について、良い点と改善点を確認しながら、話合いでまとめた曲想をより表現できるよう支援する。 ・合唱する中で改善された点については、合唱した生徒にどのようなことを意識したかを確認し、技術的な向上を図れるようにする。 ◎話合いやグループ練習を通して曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫している。(観察、ワークシート)
<p>4 グループ練習をもとに全員で合唱する。 (1) 表現方法をまとめる。 (2) まとめたことを意識して、合唱する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発声や呼吸法など、曲想を表現するために意識した技術的な面をワークシートにまとめるよう指示する。 ・グループ練習やまとめたことを生かして、全員で合唱するよう伝える。 ・表現力が乏しい生徒には、楽譜やワークシートの記入を確認させ、視覚的に表現を意識できるよう助言する。
<p>5 本時の学習まとめをし、次時の学習課題をつかむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに本時の学習の振り返りを記入するよう伝える。 ・活動が進んでいない生徒には、話合いをする前とした後で合唱がどのように変わったか感想を聞き、ポイントをしばって記入するよう促す。 ・次時の学習では、自分たちの合唱を客観的に確認するため、ビデオに撮って鑑賞することを予告する。

平成28年度

茨城県教育研究会音楽教育研究部

中央ブロック音楽教育研究発表会



期 日	平成28年11月29日(火)
会 場	東海村立東海南中学校
主 催	茨城県教育研究会 茨城県教育研究会音楽教育研究部 同 中央ブロック音楽教育研究部
後 援	東海村教育委員会 東海村教育研究会

中央ブロック音楽教育研究部長

富永 ひろみ

このたび、平成28年度茨城県教育研究会音楽教育研究部の中央ブロック音楽教育研究発表会が、東海村教育委員会、東海村教育研究会の多大なるご支援のもと開催されますことに、厚く御礼申し上げます。

さて、平成27年8月に中教審は次期学習指導要領の方向性を示す「論点整理」を公表しました。その中で、教師主導の授業から子どもの主体的な活動であるアクティブ・ラーニングへの転換を、全ての教科で行うこととの提言がなされました。

音楽教育においても、〔共通事項〕を学習の支えとして、主体的・創造的に音楽活動を展開することが求められています。そのためには、本時のねらいの明確化を図ることで、児童生徒が学びの見通しをもち、学び合いを通して新たな考えを深め広げ、より豊かな心情を育むことが大切です。

東海村音楽教育研究部では、昨年度より、茨城県研修センター指導主事の石川真裕美先生のご指導をいただきながら、本県のテーマ「共に感じ 共に楽しみながら 心むすぶ音楽を求めて」に、東海村独自のサブテーマ「～感じよう 伝え合おう 深めよう～」を設定し研究を進めてまいりました。児童生徒の主体的な学びを促す「本時のねらいの明確化」に加えて、東海村全体で研究を進めている「学び合い」や小中連携を意識した学習活動を取り入れ、創意工夫ある授業展開を実践しております。ご参会の先生方には、新しい教育の在り方に着目して、積極的に意見交換や情報交換をしていただき、明日からの授業に生かしていただければ幸いです。

結びに、授業公開をしていただきます東海村立中丸小学校・東海村立東海南中学校の校長先生はじめ教職員の先生方、授業者の先生方、そして、本会の運営にご尽力いただきました中央ブロック音楽教育研究部、東海村音楽教育研究部の先生方に御礼申し上げ、あいさついたします。



カット 東海南中学校2年 野村 美羽

平成28年度茨城県教育研究会音楽教育研究部
中央ブロック音楽教育研究発表会要項

- 1 主催 茨城県教育研究会
茨城県教育研究会音楽教育研究部
同 中央ブロック音楽教育研究部
- 2 後援 東海村教育委員会
東海村教育研究会
- 3 日時 平成28年11月29日(木)
- 4 会場 東海村立東海南中学校
- 5 研究主題 共に感じ 共に楽しみながら 心むすぶ音楽を求めて
— 感じよう 伝え合おう 深めよう —
- 6 講師 茨城県教育研修センター 指導主事 石川 真裕美 先生
- 7 日程及び内容

受付	13:00~13:20
研究授業	13:30~14:20 (小学校部会は14:15終了)
全体会	14:30~16:40
開会	14:30~14:40
協議	14:45~15:55
講師助言	15:55~16:25
閉会	16:30~16:40

8 研究授業

部会	題材名	学校	学年	授業者
小学校	音を合わせて楽しもう	東海村立中丸小学校	3年	永山 敏恵
中学校	音楽の特徴や背景を理解して その魅力を味わおう	東海村立東海南中学校	3年	澤田 久美子

9 全体会

司会者	記録者	世話係
四倉 直美 (舟石川小)	國谷 幸世 (白方小)	綿引 真由美 (外野小)

研究主題

共に感じ 共に楽しみながら 心むすぶ音楽をもとめて
～ 感じよう 伝え合おう 深めよう ～

本村では、村全体の研究として、「学び合い」の学習や、国語や算数・数学での統一の取り組みを行い、アクティブ・ラーニング、小中連携等を意識した学習活動に力を入れている。

本研究会に向けては、本村における課題を共有し研究を深めるために、昨年度村内小学校全教員にアンケートを実施した。小学校において音楽を指導する教員のほとんどが専門外である。「苦手を感じる指導は何か」という問いかけをしたところ、最も多かったのは「歌唱指導」であり、続いて多かったのは「創作・鑑賞の指導」であった。鑑賞の指導については、文部科学省の教育課程企画特別部会「論点整理」の「音楽、芸術（音楽）に関する現状について」においても、音楽を聴いて楽曲の特徴を捉えて言葉で適切に表すことや、言語活動がやや目的化し音楽のよさを味わって聴くことが十分でない傾向がみられることが挙げられている。また、「感性を働かせ、音楽を聴いてそのよさや価値等を考える。」といった、創造的に鑑賞する力を育成することが求められている。これらのことから、鑑賞領域の指導を中心とした研究を行うことにした。そして、感性を働かせ、学び合いによって児童生徒が仲間と対話しながら、自分の思いを伝え合い、共有した思いをもってさらに音楽のよさを感じたり、よりよい音楽を表現したりする授業を目指し、「～感じよう 伝え合おう 深めよう～」というサブテーマを設定した。

さらに、音楽が専門ではない小学校教員も安心して授業が行えるよう、本公開授業では、具体的な手段として教科書教材を用いて授業を展開したり、どんな教材でも使える資料の開発を行ったりした。その資料を村統一で活用することにより、小学校での学びを中学校に繋げていくという、小中連携を意識した取り組みにしたいと考える。

共に感じ 共に楽しみながら 心むすぶ音楽をもとめて

小学校

<多くの小学校教員の思い>
「音楽の専門じゃないから分からない」
「音楽の専門じゃないから難しい」

<研究授業のコンセプト>
・教科書の教材を使った鑑賞の授業の展開
・資料の開発（どんな教材でも使える）

感じよう 伝え合おう 深めよう

個人の感性

- ・「鑑賞のポイント」
…村内共通の取り組み



※音楽を聴き感じる、自分の思いをもつ

仲間との協働

- ・学び合い
・自分の思いを伝える
・感じ方の違いを知る



※学び合いの中で思いを伝え合う

共有した思い

- ・共感して聴く、表現する
・音楽のよさの実感
・よりよい音楽表現

※様々な思いを感じながら改めて音楽のよさを知る、
新たな思いで音楽を感じる

<多くの中学校教員の思い（鑑賞）>
「生徒の興味・関心を高めながら鑑賞の楽しさを伝えたい」
「どの切り口から楽曲にアプローチしたらよいか」
「曲を聴き味わうための指導や手立ての工夫とは」
「授業時数の確保が難しい」

<研究授業のコンセプト>

- ・生徒が主体的に課題追求していく授業の展開
・学び合い活動を柱とした授業形態の工夫

↓
アクティブラーニングを見据えて

中学校

1 題材名 音を合わせて楽しもう

「歌おう 声高く」「かね」「エーデルワイス」

2 題材の目標

- リズムや副次的な旋律、歌声や楽器の音が重なり合う響きを感じ取りながら聴いたり、声や音を合わせて合唱・合奏したりする学習に主体的に取り組む。 【関心・意欲・態度】
- 旋律や音の重なりを生かした合唱・合奏の表現を工夫し、表現への思いや意図をもつ。【創意工夫】
- 互いの歌声や楽器の音、副次的な旋律を聴きながら、自分の声や音を合わせて合唱・合奏をする。 【技能】
- 旋律の重なりから曲想やその変化を感じ取ったり、楽曲の構造に気を付けて聴いたりする。 【鑑賞の能力】

3 題材で扱う〔共通事項〕

- ア (ア) 音色, 旋律, 強弱, 音の重なり
- (イ) 反復, 変化

4 題材について

(1) 題材観

本題材は、学習指導要領の内容 第3学年 A 表現 (1) エ「互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと」、(2) エ「互いの楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること」、 B 鑑賞 イ「音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造に気を付けて聴くこと」を受けている。

リズムや副次的な旋律、互いの歌声や楽器の音が重なり合うよさや面白さを感じ取りながら鑑賞したり、互いの歌声や楽器の音を合わせて合唱や合奏をしたりすることがねらいである。第一次では、鑑賞を通して感じ取った音楽の楽しさや演奏のよさを二部合唱に生かすことでより深く理解させ、第二次の合唱・合奏につながるようにしていく。

(2) 児童の実態

音楽に関するアンケート (男子17名, 女子15名, 計32名 自由記述)	
1 音楽の授業で何をするのが楽しいですか? (複数回答)	
器楽 14名	鑑賞 14名 歌唱 12名 リズム作り・音楽作り 5名
2 どんなところが楽しいですか。	
器楽	・楽器を弾くとリズムに乗ってウキウキと楽しくなれるから 3名 ・楽器の音が好きだから 2名 ・こつをつかんで上手にできるようになるのが楽しいから 2名 ・知らない楽器を使って演奏するとちょっとドキドキして楽しいから。 2名 ・いろんな楽器に触れるから。 ・リコーダーが楽しいから。
鑑賞	・いろんな歌・音・音楽が聴けるのが楽しいから。 5名 ・きれいな歌を聴いていると、眠りそうになったり、気が楽になったりするから。 ・鑑賞するとこんな音やリズムがあったんだと思うから。 ・いろいろな感想が書けるから。 ・聴いてすごいなあとか思えて、弾いてみたいなあ~と思うから。
歌唱	・きれいな歌声を出して歌うのが好きだから。 4名 ・いい声を出すと気持ち良く、すっきりして楽しくなるから。 3名 ・みんなと歌うと元気が出てうれしいから。
リズム作り 音楽作り	・自分でリズムや音楽を作るととっても楽しいから。 3名 ・おもしろそうな歌とか作れるから。

本学級の児童は、音楽の授業に楽しみながら取り組んでいる。みんなで歌ったり演奏したりすることにも進んで取り組んでいる。実態調査の結果を見ても、ほとんどの児童が「音楽が好き」と答えており、「表現や鑑賞も楽しい」と答えている。

しかし、リズムや副次的な旋律、自分たちの歌声や音が重なり合うよさや面白さを感じ取ったり、重なりを生かして表現したりすることには至っていない。

また、鑑賞では、音色や旋律の上がり下がり、曲想の変化などを感じ取ることはできるが、それらを言葉で表現することが難しい児童もいる。

(3) 指導観

鑑賞教材「かね」と歌唱教材「歌おう 声高く」は、旋律に同じリズムパターンが繰り返し重ねられているという共通点がある。鑑賞では、鐘の音を表す旋律と主な旋律との重なりを聴き取り、曲想やその変化などを感じ取る活動をする。歌唱では、反復する旋律と主な旋律を合わせて歌う活動をする。

児童の実態から、鑑賞では、「かねの音」に着目させたり、簡単な身体表現を取り入れたりすることで、誰もが音の重なりや旋律の反復に気付くようにする。また、東海村音楽教育部で作成した鑑賞時に活用できる言葉を示した「鑑賞のポイント」を提示し、聴き取ったり感じ取ったりしたことを言葉で表せるようにする。さらに、感じたことを交流する場面を取り入れることで、さまざまな感じ方に触れるとともに、音の重なりによさを感じさせたい。歌唱や鑑賞で学習したことを生かし、器楽教材「エーデルワイス」では、旋律を重ねたり、楽器の音を組み合わせたり、工夫して合奏する。

これらの表現及び鑑賞の活動を通して、リズムや副次的な旋律、自分たちの歌声や音が重なり合うよさや面白さを感じ取ったり、それらを生かして合唱・合奏をしたりできるようにする。

5 教材について

歌唱教材の「歌おう 声高く」は、二部合唱の導入と、旋律の重なりでの学習を目的として作曲されたオリジナル曲である。鑑賞曲「かね」と同じようなオスティナート（反復する旋律、同型反復）が用いられているため、鑑賞と表現の活動を関連付けて学習することができる。

鑑賞教材の「かね」は「アルルの女」第1組曲の終曲で、フランスの作曲家ジョルジュ ビゼー（1838～1875）の作品である。劇中では、花飾りなどの準備で忙しい祝祭日の朝の場面で演奏される音楽で、全体に華やいだ気分にあふれている。

器楽教材の「エーデルワイス」は、ミュージカル「サウンド オブ ミュージック」の中の一曲である。ここでは、リコーダー2、鉄琴、鍵盤ハーモニカによる器楽合奏のために編曲されたものを取り上げている。合奏を通して、重なり合う楽器の音の響きを感じ取ったり、合わせて演奏する楽しさを味わったりすることができる教材である。

6 題材の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
① 旋律や音の重なり、強弱のかかわり合いによってつくられる楽曲の構造に気を付けて聴く学習に進んで取り組もうとしている。 ② 友達の歌声や音、副次的な旋律を聴きながら、自分の声や音を合わせて表現する学習に進んで取り組もうとしている。	① 互いの歌声や音、旋律の重なりを聴き取り、それらが重なる面白さを感じ取りながら、声や音を合わせる表現を工夫し、どのように歌ったり演奏したりするかについて自分の考えや意図をもっている。	① 友達の歌声や楽器の音、副次的な旋律を聴きながら、自分の声や音を合わせて歌ったり演奏したりしている。	① 旋律や音の重なり、強弱を聴き取り、それらの変化が生み出す楽曲の構造に気を付けて聴いている。

7 指導と評価の計画（7時間扱い）

次	◆ねらい ・主な学習活動	[共通事項]	評価規準
第1次 (3) 本時は 第2時	◆旋律が重なる面白さを感じ取り、互いの声を聴き合いながら歌う。 「歌おう 声高く」 ・ 4段目からの二部合唱に取り組み、二つの旋律の重なりを感じながら歌う。	・ 反復 ・ 音の重なり ・ 強弱	アー②
	「かね」 ・ 「かねのせんりつ」の音に注目しながら聴く。 ・ 楽曲の構造に気を付けながら聴く。		エー①
	「歌おう 声高く」 ・ 4, 5段目の反復する旋律に着目して、歌い方を工夫しながら二部合唱をする。		イー①
第2次 (4)	◆音が重なり合うひびきのよさや美しさを感じ取り、互いの楽器の音を聴き合いながら合奏する。	・ 旋律 ・ 音の重なり	アー①
	「エーデルワイス」 ・ 「エーデルワイス」を聴き、主な旋律の特徴をつかみ、階名唱したり、運指や息の使い方に気を付けてリコーダーで演奏したりする。		イー①
	「エーデルワイス」 ・ 低音域のレ、ミ、ファの息の使い方を確認し、練習してからリコーダー2のパートを演奏する。 ・ グループごとに二重奏をし、聴き合うことで音が重なり合うひびきのよさや美しさを感じ取る。		イー①
	「エーデルワイス」 ・ グループごとに4つの旋律を合わせる。 ・ 音量のバランスや強弱などを工夫する。		イー①
	「歌おう 声高く」「エーデルワイス」 ・ 各グループの演奏を聴き合い、演奏のよい点を伝え合う。 ・ クラス全員で合唱・合奏をする。		ウー①

8 本時の指導

(1) ねらい










- かねの音を表す旋律や音楽の構造に気を付けて聴く活動を通して、旋律が重なり合う面白さを感じ取る。

(2) 準備・資料

ワークシート、掲示物（鐘・ホルンの写真、「かね」の図形楽譜）、グループボード、付箋、鑑賞のポイント、CD、視聴覚機器

(3) 展開

★努力を要する児童への支援

学習内容と主な活動	教師の働きかけ、評価規準（評価方法）									
<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>(1) 曲の冒頭部分を聴き、“かねの旋律”を確かめる。</p> <p>(2) “かねの旋律”を歌う。</p> <p>(3) 学習課題を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> かねの音に気をつけてきいて、音楽のちがいを感じ取ろう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な鐘の写真を提示しながら問いかけることで、鐘のイメージを膨らませることができるようにする。 ・“かねの旋律”を歌うことで、本時の学習課題を意識することができるようにする。 ・かねの音がきこえるところときこえないところがあることを児童に気付かせるために、課題の前半部分のみ提示する。 									
<p>2 “かねの音”に合わせて身体表現をしながら聴き、アとイの違いに気付く。</p> <p>(1) 身体表現をしながらアとイを聴く。</p> <p>＜児童の反応例＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指揮をする。 ・かねを鳴らすまねをする。 ・歩いたりする、など <p>(2) 身体表現をしながら全曲を通して聴き楽曲の構造を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かねの音が聴こえたら立つ。 ・かねの音が聴こえなくなったら座る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まず、アの始めの部分を聴かせ、雰囲気合った動きをしている児童には称賛の言葉かけをすることで、自信をもって表現できるようにする。 ・次に、アとイを続けて聴かせ、かねの音がなくなるイの変化に気付いた児童の動きを取り上げる。 ・なぜそのような動きをしたのかを問いかけ、同じように体を動かすことで、曲の特徴を感じ取ることができるようにする。 ・身体表現をすることで、かねの音に着目して聴き、ア→イ→アという楽曲の構造に気付くことができるようにする。 ★「座る」「立つ」という簡単な身体表現を取り入れることで、友達のまねをしながら、かねの音に気を付けて聴くことができるようにする。 									
<p>3 学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> かねの音に気をつけてきいて、音楽のちがいを感じ取ろう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・残りの課題を確認することで、音の重なりによる音楽の違いを感じ取って聴くことができるようにする。 									
<p>4 アとイの違いを感じ取り、かねの音の反復や旋律の重なり合いについて気付く。</p> <p>(1) 気付いたことを全体で確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">アの部分→</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;"></td> <td style="padding: 2px;">きこえた</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">イの部分→</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;"></td> <td style="padding: 2px;">きこえない</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">アの部分→</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;"></td> <td style="padding: 2px;">きこえた</td> </tr> </table> </div> <p>(2) アとイの違いについて感じたことを話し合う。 ＜個人→グループ＞</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 付箋→ワークシートに貼る。 ② 互いの感じを伝え合う。 	ア の部分→		きこえた	イ の部分→		きこえない	ア の部分→		きこえた	<ul style="list-style-type: none"> ・強弱や速さ、曲の雰囲気などに気付くような発言があったときには取り上げ、板書することで、次の活動につなげることができるようにする。 ・2の(2)の活動を受けて、かねの音がきこえるところときこえないところがあることを確認する。 ・特に、イからアに変わる部分のかねの音に気付いた発言は大事に取り上げ、まとめの活動につなげる。 ・拡大した図形楽譜を使い、重なりや曲の構成を視覚でも確認させる。 ・かねの音が“きこえる”と“きこえない”の違いはどんな感じなのか、それはなぜなのかを付箋に書くように伝える。グループ内で色別にした付箋を使うことで、話し合いが効果的に進むようにする。 ★言葉が思いつかない児童には、ヒントとなる言葉を示すことで、その中の言葉を使いながら書くことができるようにする。
ア の部分→		きこえた								
イ の部分→		きこえない								
ア の部分→		きこえた								

(3) 全体で共有する。

ア たくさんの音がきこえるので、元気な感じがする。

イ かねの音がきこえないからさびしい感じがする。

ア またかねの音がきこえるのでごうかな感じがする。



・せんりつとかねの音が重なると、にぎやかな感じがする。

5 本時のまとめをする。

(1) 全曲を通して聴く。

(2) 本時の学習を振り返り、まとめをする。

かねの音が重なると、にぎやかな感じがして音楽が楽しくなる。

6 次時の学習課題を知る。

「歌おう 声高く」を音の重なりに気をつけて歌おう。

- ・ワークシートに貼った付箋をグループボードに貼りながら話し合うように伝える。
- ・伝え合うことで、様々な感じ方があることに気付き互いに学び合えるようにする。

- ・できるだけ児童の言葉を使ったり、教師が補ったりしながら、繰り返しかねの音が聴こえることや、音の重なりなどについて全体で確認することで、本時の課題に対するまとめをし、共有できるようにする。

評価規準 エ

旋律や音の重なり、強弱を聴き取り、それらの変化が生み出す楽曲の構造に気を付けて聴いている。

(ワークシート・発表・観察)

- ・本時のまとめとして、全曲を通して聴く場面を設けることで、旋律が重なるよさや面白さを改めて感じ取ることができるようにする。
- ・発表する場面を設けることで、できるだけ児童の言葉を生かして全体でまとめができるようにする。
- ★言葉が思いつかない児童には、書き始めの文を伝えることで、続きの文を書くことができるようにする。

- ・次時の学習課題を確認することで、期待感をもって学習を終えることができるようにする。

- 1 題材名 音楽の特徴や背景を理解して、その魅力を味わおう
連作交響詩「我が祖国」から「ブルタバ」 スメタナ作曲
- 2 題材の目標
 - 音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわり、音楽の特徴とその背景となる文化・歴史との関連に関心を持ち、鑑賞する活動に主体的に取り組む。 【関心・意欲・態度】
 - 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽の特徴をその背景となる文化・歴史と関連付けて理解し、作曲者の思いを感じ取って解釈したり価値を考えたりして、根拠をもって批評するなどして音楽のよさや美しさを味わって聴く。 【鑑賞の能力】
- 3 題材で扱う〔共通事項〕
 - (ア) 音色、速度、旋律、テクスチャ、構成
 - (イ) 拍子、調

4 題材について

(1) 題材観

本題材は、学習指導要領の内容 第2学年及び第3学年 B鑑賞(1)ア「音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して聴き、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと」及びイ「音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して、鑑賞すること」を受けている。

生涯学習として音楽を捉えたとき、鑑賞は技能を伴う表現活動よりも私たちの生活により身近であり、私たちは常に幅広いジャンルの音楽と触れ合うことのできる環境にある。しかし、一般的に音楽鑑賞という「音楽を聴くこと」のみの意味として使われることが多く、そこには聴いている本人の主観による好き嫌いに留まってしまう傾向が見られる。本来、楽曲の価値判断をするには、音楽を「聴き味わう」ことが求められ、主観と客観の両方から楽曲のより深いところまでアプローチしていくことで、私たちは曲の本質としての面白さやよさ、美しさに触れることができる。従って、鑑賞の学習においては、「知覚・感受→思考・判断→表現」の流れのもとに音楽を解釈し、より客観的に根拠をもち、自分なりの価値を見いだしながら、よさや美しさを味わって聴く能力を育成していくことが求められている。

これまで生徒は、〔共通事項〕を通して音楽を形づくっている要素を認識しながら、「なぜ、そう思う(感じる)のか」について根拠をもって説明する活動を行ってきた。ここでは、知覚・感受した内容をもとに、作曲者の思いや時代背景にも触れながらより客観的に根拠をもち、自分なりの価値を見いだしながら楽曲のよさや美しさを味わうことをねらいとしている。義務教育最後の年に取り扱う鑑賞として、多方面から楽曲にアプローチしながら総合的に聴き味わう能力を育成することを目指して、本題材を設定した。

(2) 生徒の実態

鑑賞に関するアンケート (男子18名 女子18名 計36名)	
1	普段よく聴いている音楽はどんなジャンルですか。 ・J-POP 16名 ・ゲーム音楽(アニメ、ボーカロイド含む) 12名 ・洋楽 7名 ・クラシック 1名 ・ジャズ 0名 ・演歌 0名 ・日本音楽(箏、三味線、太鼓、民謡など) 0名 ・その他 1名(レゲエ)
2	鑑賞の授業で着目するポイントはどんなことですか。(複数回答) ・構成 19名 ・場面や展開 14名 ・楽器の音色や効果的な使われ方 13名 ・強弱 10名 ・旋律 9名 ・リズム 9名 ・イメージ 5名 ・作曲者の伝えたいこと 5名 ・速さ 3名 ・出だし 2名 ・テクスチャ 1名 ・調 1名
3	鑑賞の授業で難しいと思うことはどんなことですか。(自由記述) ・感じたことを文章にまとめる 14名 ・何を想像して曲ができたのかを考える 7名 ・曲の構成を聴き取る 5名 ・作曲者の考えを汲み取る 5名 ・曲想を感じ取る 2名

本学級の生徒は、音楽活動に意欲的に取り組み、鑑賞を好む生徒も多い。普段生徒たちが耳にしている音楽はJ-popやゲーム音楽(ボーカロイドを含む)が多いが、「繰り返し続いているリズムが面白くてクセになる」、「マイナーコードの旋律が、悲しげで儂い感じがするから好き」、「ボーカルの裏に流れているストリングスの音色が優しくてきれい」など、身近な音楽の中からも、音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを感じとっている生徒もいる。反面、授業での鑑賞となると、どの音楽要素を手がかりに鑑賞したらいいのかが分からない生徒や、どの曲に対しても同じような方面からしかアプローチできない生徒も見られる。これまでの生徒の批評文からは、ワンバター

ンな楽曲の分析で終わってしまい、思考・判断を伴って深く聴き味わうところまでいかないものも多かった。また、自分の思いを上手に言葉で表現できなかつたり、どのように言語で表現するのか自信がもてないという、基礎的な部分でつまづいている生徒も少数ではあるが見られる。楽曲の本質的な魅力を味わうため、音楽要素を知覚・感受する力を確実に身に付け、自分なりに価値判断をしながら言語によって適切に表現できる力を付けさせることが課題である。

(3) 指導観

楽曲を解釈したり価値を考えたりして音楽のよさや美しさを味わうためには、知覚・感受したことを根拠として、音楽で表現されている情景や作曲者の思いや意図を考える力が必要となる。そこで今回は、川の描写に着目しながら、標題音楽としての「ブルタバ」のよさや美しさを味わうとともに、この楽曲だからこそ学ぶことのできる歴史的時代背景や作曲者の思いや意図といった「ブルタバ」のもう一つの側面を掘り下げながら楽曲の解釈につなげていくことが、自分なりの価値判断をしながら聴き味わうという課題の解決につながると考えた。指導に当たっては、具体的な手立てとして次のことを実践していきたい。まず、これまで個人の感性に任せてきた知覚・感受を、KJ法によって分類し、分析の過程を他者と共同で行うことで楽曲へのアプローチに多様性をもたせながら、より確実なものとしていきたいと考える。さらに、他者との関わりの中から自分の価値意識を再確認し、自分なりの感じ方や解釈を広げたり深めたりさせていきたい。そして、知覚・感受したものを個に還って思考・判断し、味わって聴くことを通して確かな鑑賞の能力を育て、生涯に渡って音楽を愛好する心情を育てていきたい。

5 教材について

連作交響詩「我が祖国」より「ブルタバ」(スメタナ作曲)は、1874年から1879年にかけて作曲された全6曲からなる標題音楽で、「ブルタバ」は第2曲にあたる。チェコを流れるブルタバ(モルダウ)川を描いた傑作で、哀愁を帯びた美しい主題は、チェコの国民はもちろん世界中の人々から現在も広く愛されている。曲全体を通して場面ごとの情景描写が巧みで、速度や拍子なども変化に富んでいるので、音楽を形づくる要素や構造と曲想とのかかわりが知覚・感受しやすい楽曲である。また、国民楽派の父と呼ばれるスメタナが、聴覚を失ってもなお祖国への思いを音楽に託したこの曲は、作曲された当時の時代背景を知ること、楽曲の内面性にまで触れながらより深く聴き味わうことのできる学習効果の高い楽曲である。

6 題材の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	エ 鑑賞の能力
① 「ブルタバ」の音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわり、音楽の特徴とその背景となる文化・歴史との関連に関心をもち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。	① 「ブルタバ」の音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、曲想や情景との関わりを理解して、標題音楽のよさや美しさを味わって聴いている。 ② 「ブルタバ」の特徴や情景と、歴史的時代背景を関連付けて理解し、作曲者の思いを感じ取って解釈したり価値を考えたりして、根拠をもって批評しながら鑑賞している。

7 指導と評価の計画(4時間扱い)

時	◆ねらい・主な学習活動	[共通事項]	評価規準
1	◆楽曲に関心をもつとともに、作曲者や歴史的時代背景について知り、主体的に鑑賞する。 ・楽曲の全体像を知る。 ・標題音楽について理解する。 ・作曲者、歴史的時代背景について知る。 ・楽曲を鑑賞しながら特徴や雰囲気を知覚・感受し、感想を書く。	・音色 ・速度 ・旋律 ・テクスチャ ・構成 ・拍子 ・調	アー①
2	◆標題音楽として川を描写している音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じるとともに、学習を深めるための新たな課題を見つける。 ・川の描写に着目して聴き、音楽を形づくっている要素を知覚したり、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じたりしながら、ワークシートをまとめる。 ・感想を手がかりにKJ法で楽曲の工夫点や魅力を分類する。 ・なぜタイトルが「我が祖国」なのかを考え、楽曲に込められた作曲者の思いがあることに気付く。		エー①
	◆「ブルタバ」の特徴や情景と、歴史的時代背景を関連付けて理解し、作曲者の思いを感じ取って解釈したり価値を考えたりする。		エー②

3 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・小グループごとに前時に自分たちが決めた観点について分析し、特徴や情景と歴史的時代背景を関連付けながら、作曲者が楽曲に込めた思いや意図について意見を出し合う。 ・分析したことを発表し、共有する。 (小グループ→大グループ→全体) ・自分にとっての新しい価値を確認しながら楽曲を通して聴く。 	
4	<ul style="list-style-type: none"> ◆「ブルタバ」が人々を惹きつけるのはなぜかを考えることで、自分なりに批評しながら「ブルタバ」全曲を味わって聴く。 ・「プラハの春音楽祭」の映像(ダイジェスト)を視聴し、現在の「我が祖国」の価値を知る。 ・学習を振り返りながら「ブルタバ」全曲を聴く。 ・自分にとっての解釈や価値意識を再確認し、批評文をまとめる。 	エー②

8 本時の指導

(1) ねらい

- 「ブルタバ」の特徴や情景と、歴史的時代背景を関連付けて理解し、作曲者の思いを感じ取って解釈したり価値を考えたりする。

(2) 準備・資料

ワークシート、視聴覚機器、ホワイトボード、CD、CDラジカセ

(3) 展開

★ 努力を要する生徒への支援

学習内容と主な活動	教師の働きかけ、評価規準(評価方法)
<p>1 本時の学習課題を知り、小グループごとに予想を立てる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>スメタナは、「ブルタバ」で何を伝えたかったのだろうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・チェコの自然の雄大さ ・ブルタバ川の美しさ ・独立したいという願い ・チェコの素晴らしさ 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時のKJ法による興味・関心をもとに、予め話合いのしやすい4人ずつの9グループに編成しておく。また、活動がしやすいように配置を工夫する。 ・授業の流れを説明し、それぞれのグループで異なった方向から楽曲にアプローチすることで、最終的には自分なりの感じ方や解釈を広げていくことを確認する。 ・活動にあたっては、自分なりの感じ方を大切にするとともに、偏った価値の押しつけにならないよう助言する。 ・楽曲分析に終始偏るのではなく、美しいチェコの自然描写とともにスメタナが楽曲の中にちりばめた思いや意図を感じ取るのが活動の柱であることを伝え、課題の方向性を明確にする。 ・予想を立てることにより、自分たちがどの方向から課題を解決していけばよいのかを考えさせる。
<p>2 小グループごとに前時に自分たちが決めた観点について分析し、特徴や情景と歴史的時代背景を関連付けながら、作曲者が楽曲に込めた思いや意図について意見を出し合う。 (予想される生徒の考え)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ブルタバのテーマ班</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・前半と中盤のテーマは短調で悲しげに聴こえる。 ↓ チェコの人々の悲しみ 支配されている苦しさ 故郷へ帰りたい思い ・最後は長調に変わりテンポも速くなる。生き生きとした音色で嬉しそう。 ↓ チェコが圧政から解放された喜び <p>☆スメタナは、祖国を取り戻したいという願いや希望をテーマに込めた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・[共通事項]を提示し、音楽の特徴を生み出している根拠を知的に理解させる手立てとする。 ・活動の流れを提示するとともに、話合いの時間が十分に確保できるよう時間配分を配慮する。 <p>(活動の流れ)</p> <p style="text-align: center;">グループ鑑賞・個人分析 ↓ 意見交換・話合い ↓ グループ鑑賞・確認 ↓ 意見交換・話合い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループにCDを準備し、聴きたい場所を選んで繰り返し聴きながら話合いをさせるようにする。 ・ホワイトボードを活用することで、グループの意見を視覚的にまとめさせる。 ・机間をまわり、一人一人の考えがグループに反映されるようサポートする。 <p>★分析に戸惑っている生徒には、手がかりとなる[共通事項]を示し、楽曲の中でどのように展開しているのかを考えさせる。</p>

聖ヨハネの急流班

- ・打楽器が目立つようになった。シンバルは水しぶき、ティンパニは水が落ちる音に聴こえる。

↓
独立を願い戦っている

- ・低音は怖い響き、高音は鋭い音で叫んでいるよう。

↓
圧政と逃げ惑う人々

- ・一度音が弱くなり、急に明るくなってブルタバのテーマが長調で流れる。

↓
チェコの勝利

☆スメタナは、苦しい圧政に打ち勝つ様子をこの場面で表現した。

- 3 3つの小グループごとに、分析して分かったことを発表し、共有する。
さらに、全体で共有すべき特徴やよさについて発表する。

(予想される生徒の考え)

2つの水源班

聖ヨハネの急流班

ビシエブラト班

↓
それぞれの班の分析と3班をまとめた総評を全体に発表する

ハープが弾く1粒の水滴から始まり、楽器を増やしながらかくさんの音が集まり、激しい急流を経て大河となった。これは、チェコの国民1人1人の願いが集結し、独立を勝ち取るまでの道のりを表現したものだと思う。

- 4 自分にとっての新しい価値を確認しながら、あらためて楽曲を聴き味わう。

せる。

- ・生徒から出された意見は、共感しながら肯定的に受け止め、生徒の学習への意欲につなげる。

- ・他のグループから出された意見の要点をワークシートにメモさせ、楽曲のよさや特徴が多様であることに気付かせる。
- ・発表の際は、必要に応じて曲の一部を流しながら分析結果を検証してもよいこととする。

★活動が停滞している場合は、他者の発言を聞き、それをもとに自分との共通点や相違点を述べるなどして話合いの学習を深めていくよう、活動の流れへのヒントを提案する。

★自分なりの価値判断が困難な生徒には、他者の意見に共感できるものを切り口として、作曲者の思いへの根拠を考えるよう助言する。

・分析途中で発表の時間を迎えたグループには、補足説明しながらよい着眼点のもとに活動していたことを認める。

評価規準 エー②

「ブルタバ」の特徴や情景と、歴史的時代背景を関連付けて理解し、作曲者の思いを感じ取って解釈したり価値を考えたりして、根拠をもって批評しながら鑑賞している。(観察・ワークシート)

- ・「ブルタバ」には、美しい川の流れの描写とともに、祖国を思い独立を願うチェコ国民やスメタナ自身の思いが描かれていることを確認し、あらためて楽曲をじっくりと聴かせる。

・本時のまとめとして、楽曲としての魅力やよさと作曲者の思いの両面を合わせて考えさせたい。

・集中して楽曲に向き合うことを主軸とするが、新たな発見や気づきは必要に応じてメモを取ってもよいこととする。

・活動に見通しがもてるよう、次回は個人で批評文をまとめることを伝える。

♪かんじょうのポイント♪

ポイント		おんがくの ことば
おとのかんじ	こえ がっきのおと	たかいおと ひくいおと あかるいおと くらいおと げんきなおと しずかなおと さびしいおと こわいおと かわいらしいおと たのしいおと どうどうとしたおと やわらかいおと かたいおと やさしいおと
リズム	パターン	おなじリズム ちがうリズム くりかえし ながいおんぷ みじかいおんぷ
はやさ	ぜんたいてきに ぶぶんてきに だんだん	はやい あわただしい すばやい いそがしい ～のようなはやさ おそい ゆっくり ゆったり のんびり
メロディ	しゅやくのメロディ ばんそう	ながれるような はねるような なめらかな どうどうとした たのしい かなしい こわい
つよさ	こえ・がっきの おとのつよさ ぜんたいてきに ぶぶんてきに だんだん	つよい とてもつよい すこしつよい きゅうにつよい よわい とてもよわい すこしよわい きゅうによわい だんだんつよくなる だんだんよわくなる
おんがくのまとめ		音色、リズム、速度、旋律、強弱、拍の流れやフレーズ

♪鑑賞のポイント♪

< 中・高学年 >

ポイント		音楽の言葉
音 色	声 楽器の音	高い音 低い音 明るい音 暗い音 元気な音 静かな音 さびしい音 おそろしい音 かわいらしい音 楽しい音 輝かしい音 堂々とした音 やわらかい音 かたい音 やさしい音
リズム	拍子 パターン	○拍子 同じリズム 違うリズム 繰り返し 長い音符 短い音符
速度	全体的に 部分的に だんだん	速い あわただしい 素早い いそがしい リズミカル 遅い ゆっくり ゆったり のんびり
旋律	主役のメロディ 伴奏	流れるような はねるような なめらかな 堂々とした 楽しい 悲しい おどろおどろしい 同じ高さの音 高い音 低い音 上がり下がり
強弱	声・楽器の音の強さ 全体的に 部分的に だんだん	強い とても強い やや(少し)強い 急に強い 弱い とても弱い やや(少し)弱い 急に弱い だんだん強くなる だんだん弱くなる
音階や調	長調 短調	明るい感じ 楽しい感じ 暗い感じ 悲しい感じ
フ拍しの流れや		
音の重なり		
和声の響き		

♪鑑賞のポイント♪

組 氏名

< 基本編 >

ポイント	たとえば・・・
聞いたことがある？ない？	<ul style="list-style-type: none"> ・〇〇で聞いたことがある。 ・初めて聞いたが、〇〇の音楽に似ている。
好き？きらい？	<ul style="list-style-type: none"> ・〇〇なところが好き。〇〇の楽器の音が好き。 ・〇〇の雰囲気あまり好きではない。
短調（暗い曲）？ 長調（明るい曲）？	<ul style="list-style-type: none"> ・最初の部分は長調で始まっていた。 ・途中で短調になって〇〇な雰囲気になった。

< 中級編 >

ポイント	たとえば・・・	
音色	楽器について	<ul style="list-style-type: none"> ・（知っているれば）楽器名。 ・〇〇に似ている音が聞こえた。 ・〇人くらいで演奏していると思う。
	声について	<ul style="list-style-type: none"> ・こんな声（ソプラノ，アルト，テノール，バス）だった。 ・力強い，柔らかい，響く・・・
強弱	全体に？ 部分的に？	<ul style="list-style-type: none"> ・全体に弱く優しい感じの曲だった。 ・曲が進むにつれ，だんだん強くなっていった。 ・ピアノの音が強く聞こえてきた。
	旋律	<ul style="list-style-type: none"> ・主旋律を演奏していたのはトランペットだった。 ・主旋律は悲しい感じだった。 ・伴奏はオーケストラで，流れるようだった。
速度	全体に？ 部分的に？	<ul style="list-style-type: none"> ・走るように速い曲だった。 ・途中からは，ゆっくりと落ち着いた速度になった。 ・速度はだんだん速くなっていった。
	リズム	<ul style="list-style-type: none"> ・伴奏のピアノは同じリズムを繰り返していた。 ・〇拍子の曲だった。 ・タンゴのリズムが使われていた。

< 上級編 >

ポイント	たとえば・・・	
テクスチャ	<ul style="list-style-type: none"> ・主旋律と対旋律の絡み合いは？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ソプラノとアルトが，同じ旋律を輪唱のように歌っていたので美しく聞こえた。 ・旋律と伴奏の組み合わせ方がきれいだった。 ・三味線の音と箏の音のかかり合いによって，〇〇な雰囲気がつくられていた。 ・対旋律が加わり，響きが豊かになった。
構成	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽のつくりは？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じフレーズが何度も繰り返されていた。 ・最初の長調の旋律が短調になって再現されていた。
形式	<ul style="list-style-type: none"> ・曲のまとまりは？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・二部形式（三部形式・ソナタ形式）だった。 ・序破急が使われていた。

< 特別編 >

ポイント	たとえば・・・
イメージできることは？	<ul style="list-style-type: none"> ・風景は〇〇。 ・色にたとえると〇色。

平成 28 年 度
茨城県教育研究会音楽教育研究部

県東ブロック

音 楽 教 育 研 究 協 議 会



平成 28 年 6 月 15 日 (水)

行方市立玉造小学校
行方市立玉造中学校

茨城県教育研究会音楽教育研究部 県東ブロック音楽教育研究協議会

- 1 期 日 平成28年6月15日(水)
- 2 会 場 授業公開・・・行方市立玉造小学校
分散会・全体会場・・・行方市立玉造中学校

- 3 講 師
- (小学校)
前大洗町立大洗小学校長 船生 佳子先生
前茨城県教育研究会音楽教育研究部副部長
- (中学校)
前茨城県校長会副会長 錦織 俊雄先生
前茨城県教育研究会副会長
- (全体)
茨城県教育庁学校教育部義務教育課指導主事 川野 康子先生

- 4 日 程
- 13:00 13:30 14:15 14:35 15:35 15:45 16:30

玉造小学校	受付	授業公開	休憩 移動	玉 造 小 学 校	第一分散会 小学校(体育館)	休憩 ・ 移 動	全体会
玉造中学校		授業公開	休憩 移動		第二分散会 中学校(家庭科室)		(体育館)

13:25

5 研究主題

『 共に感じ 共に楽しみながら 心むすぶ音楽を求めて 』
 県東ブロックサブテーマ
 ～ 味わう 聴き合う 伝え合う ～

6 授業公開

学校名・学年	授業者名	題 材 名
玉造小学校 第3学年	石川夕香里	くり返して重ねて
玉造小学校 第5学年	渡邊 朋子	リズムを重ねて楽しもう
玉造中学校 第2学年	石神 麻衣	曲想の変化を味わって歌ったり鑑賞したりしよう 「夢の世界を」「交響曲第5番ハ短調」

7 研究協議会

研究協議会	会 場	講 師	司 会	記 録
第一分散会 (小学校)	体育館	船生佳子先生	出頭愛子 (鹿島小)	真家恭子 (潮来小)
第二分散会 (中学校)	家庭科室	錦織俊雄先生	小山裕子 (神栖四中)	中澤知子 (旭中)
全体会	体育館	川野康子指導主事	若松孝子 (大洋中)	村田聡子 (北浦中)

1 題材名 くり返して重ねて

2 題材の目標

- リズムによって曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって演奏する学習に進んで取り組もうとしている。(音楽への関心・意欲・態度)
- リズムや音の重なり、反復の楽しさを感じ取りながら、思いや意図をもって、曲にふさわしい表現を工夫することができる。(音楽表現の創意工夫)
- 曲想にふさわしい表現で演奏したり、楽器の音色に気を付けたりして、旋律楽器や打楽器を演奏することができる。(音楽表現の技能)
- リズムや音の重なり、反復を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、曲想とその変化を聴くことができる。(鑑賞の能力)

3 主な〔共通事項〕

- (ア) リズム、音の重なり
- (イ) 反復

4 題材設定にあたって

(1) 題材について

本題材は、学習指導要領の第3学年及び第4学年のA表現の(3)音楽づくりのA「いろいろな音の響きやその組合わせを楽しみ、様々な発想をもって即興的に表現すること。」イ「音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、思いや意図をもって音楽をつくること。」を受けた内容である。

本題材では、反復されるリズムや旋律をとらえ、それらを重ねて演奏していく中で、リズムに親しみ、音楽の面白さや楽しさを感じて味わうことがねらいである。低学年での音楽経験を生かし、簡単な音の重なりやその響きを味わい、リズムや旋律の反復や音の重なり、楽しさ、曲想を生かして演奏すること、リズム伴奏を工夫して演奏することなどの活動を通して、さらに豊かな音楽経験をすることができると考える。

(2) 児童の実態(児童数 男17人 女20人 計37人) 調査日 4月28日実施

質問事項	回 答 (人)	
・音楽は好きですか。理由(複数回答)	はい 29	いいえ 8
	○ 「はい」の理由	
	・合奏が好きだから 22	・歌うことが楽しいから 20
	・音楽づくりが好きだから 16	
	・音楽を聴くことが好きだから 13	
	・楽器を演奏することが楽しいから 2	
	○ 「いいえ」の理由	
	・歌うことが苦手だから 5	・楽器が苦手だから 4
	・発表が緊張するから 2	・楽譜がわからないから 2
・音楽で楽しいと思う時はどんな時ですか。(複数回答)	・みんなで歌う 28	・リズムづくり 27
	・合奏する 23	・知らなかった曲を知る 20
	・グループ発表会 20	
	・グループ活動で意見を出し合って表現を工夫する 19	
	・自分のふしを友だちのふしと合わせる 15	

実態調査の結果、ほとんどの児童が「音楽が好き」と答えている。理由には、楽器に興味があり、演奏することが楽しいと挙げている。また、歌うことにおいても楽しいと感じている児童が半数以上いる。器楽の活動においては、音を合わせて演奏することの楽しさを味わっている児童が多いものの、グループで互いの楽器を聴き合ったり、意見を出し合って表現を工夫したりする活動に対する満足度には課題が見られる。

(3) 指導について

指導にあたっては、楽器の扱いや基本的な奏法を指導した上で、材質による打楽器の音色や響きの違いを感じ取ることができるように、いろいろなたたき方をしたり、スティックやマレットを用いたりする活動を十分に行う。また、一つの楽器でも違う響きを出せることや、材質の違いによって音の特徴や雰囲気が異なったりすることに気付くことができるように、音を聴き合い、感じたことを伝え合う場面を設定する。さらに、身の回りの物から面白い音を見つけて表現することで、音を探したり、音をつくったりする面白さに気付くとともに、自分の思いや意図をもって音楽をつくったり、演奏したりする学習に繋げたい。

本時は、それらの活動を生かして、「まほうのチャチャチャ」で表現したいチャチャチャのイメージに合う音の組み合わせを考えたり、演奏の仕方を工夫したりする。イメージに近づけるために、友だちとの音の順番や鳴らし方を考えたり、試したりして音の出し方を工夫して音楽づくりをすることで、音を音楽へと構成する面白さに触れることができるようにしたい。伝え合う力を高めるためには、互いの音色を聴き取り、アドバイスし合うことによつ

て、さらにイメージに近づくことができるようにする。音で思いを伝えたり、聴いた感じを言葉で伝えたりすることで、互いに高め合える学習活動を展開したい。

教材「まほうのチャチャチャ」(和田 崇 作詞 ホリン作曲 和田 崇 編曲)

教育出版「音楽のおくりもの」3年

鑑賞教材「まほうのチャチャチャ」(ホリン作曲) 教育出版「音楽のおくりもの」3年

(4) 平成28年度学校教育指導方針との関連

- 思いや意図をもって表現したり、味わって聴いたりする力の育成
- ・ 言語活動を適切に取り入れ、音楽表現の質を高める協働的な学習の充実

5 題材の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
①リズムにのって曲想にふさわしい表現を工夫する学習に進んで取り組もうとしている。	①互いの楽器の音、リズム、副次的な旋律、反復や音の重なりによさや面白さなどを感じ取りながら、合奏表現を工夫し、どのように演奏するかについて自分の考えや意図をもって	①友だちの楽器の音や伴奏を聴きながら、自分の音を合わせて演奏している。 ②楽器の音色に気を付けて旋律楽器や打楽器を演奏している。	①リズムの特徴や音の重なり、反復などに気付き、打楽器の効果を感じ取って聴いている。

6 指導と評価の計画(4時間扱い)

④ 教材 ⑤ 鑑賞教材

次	ねらい	主な学習活動	[共通事項]	題材の評価基準と評価方法
第1次 (2)	○ 歌詞やリズムの面白さを感じ取る。	④ 「まほうのチャチャチャ」 ・ 曲の雰囲気味わいながら、拍打ちをしたり、体を動かしたりして、リズムを感じ取る。 ・ リズムにのって、イ、ウの部分を取り返して歌う。 ・ 重ねて歌う楽しさを味わいながらイとウの部分を重ね合わせて歌う。	・ リズム ・ 反復 ・ 音の重なり	アー① 観察 ワークシート
	○ リズムの特徴や音の重なり、反復に気付き、打楽器の効果を感じ取りながら演奏する。	⑤ 「まほうのチャチャチャ」 ・ クラベス、カウベルなどの楽器の音とリズムに注目して聴く。 ・ それぞれの楽器の重なりを聴く。 ・ 曲の雰囲気に合う打楽器を選択し、リズムにのって演奏する。	・ 反復 ・ 音の重なり ・ リズム	エー① 観察 ワークシート ウー① 観察 発表
第2次 (2) 本時は 第1時	○ 思いや意図をもって、曲の雰囲気合う演奏表現を工夫する。	④ 「まほうのチャチャチャ」 ・ イとウの部分に伴奏を加えてくり返したり、重ね合わせたりして演奏する。 ・ グループで曲の雰囲気に合う伴奏や打楽器を考え、工夫して演奏する。	・ 反復 ・ 音の重なり	イー① 観察 発表 ワークシート
	○ 楽器の音色に気を付けて旋律楽器や打楽器を演奏する。	④ 「まほうのチャチャチャ」 ・ 工夫した伴奏やリズムを入れて、グループごとに演奏する。 ・ 友だちの演奏を聴いて、よいところを発表する。	・ 音の重なり ・ リズム ・ 反復	ウー② 観察 発表

7 本時の学習

(1) 目標

- 思いや意図をもって、曲の雰囲気に合う演奏表現を工夫することができる。

(2) 準備・資料

タンバリン、トライアングル、鈴、ウッドブロック、小太鼓、大太鼓、ボンゴ、シンバル、カスタネット、プラスラップ、アゴゴベル、カウベル、手作り楽器、CDプレーヤー、音楽のもと(掲示物)、活動手順カード、リズムカード、グループ用ホワイトボード、ワークシート

(3) 展 開

学習内容・活動	教師の援助・評価 (評) は評価規準・方法)
<p>1 学習の雰囲気をつくる。 「まほうのチャチャチャ」を歌う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「チャチャチャ」の部分は、手拍子や身近な物をたたいて音を出して歌うことで、本時の課題に意欲がもてるようにする。
<p>2 本時の学習課題をつかむ。 「まほうのチャチャチャ」に合う 楽きをえらんで、くふうしてえんそ うしよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時で決めたグループごとの思いや意図を黒板に掲示して、想起しながら確認できるようにする。 ・前時で確認したいろいろな打楽器の音色から、グループの思いや意図に合う楽器を選ぶことができるようにする。
<p>3 グループで、「まほうのチャチャ チャ」に合う楽器を選択する。 (1) リズムと音の重なりを意識して 楽器を選ぶ。 (2) 曲に合った音の組み合わせを楽 器で試しながら考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような奏法や組み合わせで演奏すれば曲に合う演奏ができるかに注目することで、本時の活動内容を明確にする。 ・「チャチャチャ」のリズムを意識できるようにする。 ・リズムカードを使用することで、自分の演奏するリズムを確認できるようにする。 ・イヤウの4小節のみ楽器を鳴らし、音の重なりや組み合わせを比較できるようにする。 ・「活動の手順カード」に基づいてグループで活動方法を選択できるようにする。
<p>(3) 感じたことや思ったことをワー クシートに記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の感じ方や思ったことを記録させることで、話し合うときの材料にできるようにする。 ・言葉で表現することに戸惑っている児童には、「音楽のもと」から言葉を選び、自分の思いや考えを書く手立てとする。
<p>(4) ワークシートを基に話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・試していく中で、曲に合うように楽器の鳴らし方を変えてみたり、音量を変化させたりして、さらに工夫できるように支援する。
<p>(5) 決まった順番で演奏練習をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・必要があれば、グループ用ホワイトボードに書き込むように伝える。 ・最後まで練習し歌とリズムが上手く合ったグループには、「終わり方」を工夫することを伝える。
<p>4 中間発表をする。</p>	<p>④ 思いや意図をもって、曲の雰囲気合う演奏表現を工夫することができたか。(ワークシート、観察)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最後まで練習し、完成したグループには発表することを伝える。 ・どのような工夫をしたのかを伝えさせる。 ・曲に合っているかに注目して聴くことを伝える。
<p>5 本時のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・次時のグループ発表会への意欲を高める。



1 題材名 リズムを重ねて楽しもう

2 題材の目標

- インターロッキングの音楽について関心をもち、仕組みを生かして音楽をつくったり、鑑賞したりする活動に主体的に取り組もうとしている。(音楽への関心・意欲・態度)
- リズムや旋律を重ねる面白さを感じ取りながら、音の重なりや組み合わせを工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもって表現することができる。(音楽表現の創意工夫)
- 反復や音楽の縦と横の関係を生かして、即興的に表現したり、音を音楽に構成したりすることができる。(音楽表現の技能)
- インターロッキングを形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造を理解して聴くことができる。(鑑賞の能力)

3 主な〔共通事項〕

- (ア) リズム
- (イ) 反復、音楽の縦と横の関係

4 題材設定にあたって

(1) 題材について

本題材は、学習指導要領の第5学年及び第6学年のA表現の(3)音楽づくりのイ「音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、見通しをもって音楽をつくること。」とB鑑賞の(1)イ「音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造を理解して聴くこと。」を受けて取り扱ったものである。

本題材では、インターロッキングを形づくっている要素であるリズムや反復、音楽の縦と横の関係を聴き取り、リズムや旋律を重ねる面白さを感じ取りながら、反復や音楽の縦と横の関係を生かし、見通しをもって音楽をつくることをねらいとしている。

(2) 児童の実態 (児童数 男17人 女16人 計33人) 調査日 4月28日実施

質問事項	回答 (人)	
・音楽は好きですか。 理由(複数回答)	はい 23	いいえ 10
	○ 「はい」の理由	
	・楽器を演奏することが好きだから	17
	・音楽を聴くことが好きだから	13
	・合奏をすることが好きだから	7
	・歌うことが好きだから	7
	・音楽づくりが好きだから	3
	○ 「いいえ」の理由	
	・歌うことが嫌いだから	4
	・楽譜が分からないから	3
	・楽器を演奏することが苦手だから	2
	・音楽づくりが苦手だから	1
・器楽の授業ではどんな演奏形態が好きですか。(複数回答)	・一人で演奏する(独奏)	4
	・友達と音色を合わせて同じ旋律を演奏する(ユニゾン)	18
	・少ない人数で合奏のように演奏する(重奏)	12
	・全体でパートに分かれて合奏する	18
・合奏の授業ではどんなことに気を付けていますか。 (自由記述・類似回答分類)	・自分と同じパートの人の音を聴いて音色を合わせて演奏する	18
	・自分のパートを間違わないように演奏する	16
	・楽譜を暗記する	3
	・自分とは違うパートの音を聴いて音を重ねて演奏する	1
・演奏で困ったときにはどんなことを頼りにしますか。 (自由記述・類似回答分類)	・友達と聴き合いアドバイスをもらう	19
	・楽譜をよく見る	15
	・先生に質問する	9
	・範奏CDを参考にする	5
	・家の人に教えてもらう	4

本学級の児童は、音楽への興味・関心が高い児童と興味・関心が低い児童が極端に分かれている。音楽への興味・関心が高い児童は、歌唱にも器楽にも意欲的に取り組んでいる。それに対して音楽への興味・関心が低い児童は、音楽への苦手意識があり、特に歌唱と楽器演奏、音楽づくりに強い抵抗感をもっている。抵抗を感じる理由については、歌唱は音程が正しく取れない、音楽づくりは基本的な楽典の知識の定着が乏しいために工夫して作るということに難しさを感じている。しかし、器楽に関しては、好きだと答える児童が多く、一人で演奏する独奏よりも、ユニゾンや合奏などのように友達と音を合わせて演奏する学習への関心が高い傾向が見られる。また、合奏では、同じパートではあるが、友達の音を聴いて音色を合わせて演奏しようとする意識が見られる。

(3) 指導について

指導にあたっては、インターロッキングの仕組みであるリズムの反復や音楽の縦と横の関係を鑑賞曲から聴き取る。そして、リズムや旋律を重ねる面白さを感じ取りながら、反復や音楽の縦と横の関係を生かしながら、思いや意図をもって音楽をつくることができるようにしていきたい。そのために使用する鑑賞曲の4曲は、すべてインターロッキングの音楽である。インターロッキングとは、「かみ合わさる」という意味で、同じリズムや旋律が繰り返されながら、複数のパートが互いにかみ合わさっているような音の重なり方をする音楽のことをさす。「クラッピングミュージック」は、手拍子というシンプルな同一の素材を用いて、同一のパターンのリズムが徐々に変化しながら繰り返されることによって生み出される音楽の面白さを表現した楽曲である。「ケチャ」は、バリ島を代表する芸能で信仰がその根底にある。五・六重の放射状の輪に座った男性による「チャッチャッチャッ」、「ポポポ」などのかけ声による大合唱で、人間の声がリズム楽器の役割を果たし、複雑なポリリズムを生み出している。「木きんの合そう」は、反復される木琴の軽快な旋律の上に、即興的にもう一つのメロディーが重なり合うインターロッキングの音楽が見られる楽曲である。「3声のアンサンブル」は、簡単なリズムを聴き取りやすく重なり合わせて演奏している楽曲である。以上のことから、これらの題材曲は、本題材のねらいを達成する上で有効であると考えられる。

本時は、学級児童の苦手意識が高い音楽づくりを、子どもたちにとって取り組みやすい打器楽を使って行うことで、抵抗感を低くし、意欲的に取り組めるようにさせたい。また、音楽への苦手意識がある児童と少ない児童の両方を意図的に編成したグループで音楽づくり活動を行うことを通して、互いの表現を聴き合い、よさを認めたり、意見を述べたりすることで、友達と音を重ね合わせて表現する楽しさや、自分の思いにそって強弱や速さなどを工夫しながら表現を練り上げていく楽しさを感じられる学習となるようにしたい。

鑑賞教材

- ・「クラッピングミュージック」(スティーブ・ライヒ作曲) 教育出版「音楽のおくりもの」5年
- ・「ケチャ」(インドネシア バリ島) 教育出版「音楽のおくりもの」5年
- ・「木きんの合そう」(アフリカ) 教育出版「音楽のおくりもの」5年
- ・「3声のアンサンブル」(長谷部匡俊 作曲)

(4) 平成28年度学校教育指導方針との関連

- 思いや意図をもって表現したり、味わって聴いたりする力の育成
 - ・音楽の仕組みを生かして、音を音楽へと構成していく力を高める音楽づくりの指導の充実

5 題材の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
①インターロッキングの音楽について関心をもち、仕組みを生かして音楽をつくったり鑑賞したりする活動に主体的に取り組もうとしている。	①リズムや旋律を重ねる面白さを感じ取りながら、音の重なりや組み合わせを工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもって表現しようとしている。	①反復や音楽の縦と横の関係を生かして、即興的に表現したり、音を音楽に構成したりしてインターロッキングの音楽をつくっている。	①インターロッキングを形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造を理解して聴いている。

6 指導と評価の計画（4時間扱い）

（鑑）鑑賞教材

次	ねらい	主な学習活動	〔共通事項〕	題材の評価規 準と評価
第1次 (1)	○ インターロック ングの音楽を聴くこ とで、仕組みを知り、 インターロックン グの音楽の面白さを感じ取る。	（鑑）「ケチャ」 ・音やリズムの重なりや反復などイン ターロックングの仕組みを感じ取る。 ・声や手拍子を重ね、ケチャの音楽を 楽しむ。 ・グループでパート分けし、ケチャを 楽しむ。	・反復 ・リズム ・音楽の縦と 横の関係	エー① 観察 ワークシート アー① 観察
第2次 (2) 本時は 第2時	○ 反復や音楽の縦と 横の関係を生かして、 インターロックン グの音楽をつくる。	（鑑）「木きんの合そう」 ・各自でインターロックングのリズム をつくる。 （鑑）「クラッピングミュージック」 ・グループで各自のリズムを合わせて 演奏する。 ・はじめ方と終わり方を意識した音楽 づくりを工夫する。	・リズム ・反復 ・音楽の縦と 横の関係	ウー① 観察 ワークシート
	○ 音楽の縦と横の関 係を生かしながら、 思いや意図をもって パートの重ね方を工 夫する。	（鑑）「3声のアンサンブル」 ・グループで、縦と横の関係を生かし た表現を工夫する。 ・互いに聴き合い、それぞれの表現の よさを学び合う。	・音楽の縦と 横の関係 ・リズム ・反復	イー① 観察 ワークシート 発表
第3次 (1)	○ インターロック ングを形づくっている 要素のかかわり合い を感じ取り、楽曲の 構造を理解して聴き 合う。	（鑑）「3声のアンサンブル」 ・前時学習での他グループの発表をも とに、インターロックングの音楽を 工夫する。 ・インターロックングの音楽発表会を し、友達の表現のよさを聴き合う。	・音楽の縦と 横の関係 ・反復	エー① 観察 発表 ワークシート

7 本時の学習

(1) 目標

- 音楽の縦と横の関係を生かしながら、思いや意図をもってパートの重ね方を工夫することができる。

(2) 準備・資料

楽譜、ワークシート、メトロノーム、グループごとの活動シート、木琴、カスタネット、ウッドブロック、ボンゴ、小太鼓、録音機器

(3) 展開

学習内容・活動	教師の援助・評価（評は評価規準・方法）
1 前時の学習を振り返る。 ・前時につくった演奏と「3声のアン サンブル」を聴き、パートの重ね方 の違いを確認する。	・前時に行った活動を再度取り上げ、「各パートの入 り方をずらしたらどのように聴こえたか。」を問う ことで、パートの重ね方で全く違う聴こえ方になる ことを想起することができるようにする。
2 本時の学習課題をつかむ。 パートの重ね方を工夫して、インタ ーロックングの音楽をつくらう。	・インターロックングの音楽は、リズムを反復させる だけでなく、音楽の縦と横の関係を工夫してパート を重ねることで、より自分たちの思いや意図に近づ けることを確認する。

3 グループごとにパートの重ね方を工夫する。

(1) 音楽のつくり方を確認する。

- ・パートの重ね方
(音楽の縦と横の関係)
- ・音楽づくりの約束
(音楽的な約束事)

- 8拍分のリズムの反復
- はじめ方と終わり方
- 一拍 = 120 で 40秒程度
- ①②は同時に始める
- グループで1種類の楽器

(2) グループでの音楽づくり

4 グループの演奏を聴き合い、それぞれの演奏のよさを話し合う。

5 本時のまとめを行う。

・自分たちの音楽をどのような形に仕上げていくのかをグループごとの活動シートに記入した構想図で確認させることで、パートをどのように重ねていくのか見通しをもつことができるようにする。

・鑑賞曲の図形楽譜等を見ながら、どのようにパートを重ねたいか確認させることで、音だけではなく、視覚的にも音の重なりを捉えて、音楽の縦と横の関係を生かした音楽づくりができるようにする。

・音楽づくりの約束を確認することで、インターロッキングの仕組みに沿った音楽づくりができるようにする。

・活動が滞ったグループには、構想図を見ながらパートの重ね方を提示し、自分たちの思いに近い表現を考えられるようにする。

・パートの音が揃わないグループには、拍をカウントしたり、1パートずつ重ねたりすることを助言することで、互いのパートを意識しながら合わせるができるようにする。

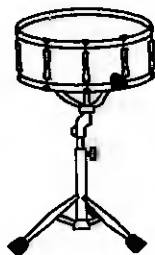
・パートの重ね方ができているグループには、より構想図に近づけるよう強弱にも目を向けるよう言葉かけをする。

⑨ 音楽の縦と横の関係を生かしながら、思いや意図をもってパートの重ね方を工夫することができたか。
(ワークシート、観察)

・完成したグループには、発表することを伝える。

・表現のよさや協力してつくり上げたことへの頑張りを称賛することで、次時への意欲をもてるようにする。

・インターロッキングの音楽づくりにおいて、リズムの反復を行い、音楽の縦と横の関係を工夫することで、自分たちの思いや意図に近づけたかを、自分の言葉で振り返ることができるようにする。



- 1 題材名 曲想の変化を味わって歌ったり鑑賞したりしよう 「夢の世界を」(芙龍明子作詞, 橋本祥路作曲)
「交響曲第5番ハ短調」(ベートーヴェン作曲)

2 題材の目標

- 音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりに関心をもち、鑑賞する活動に主体的に取り組もうとしている。(音楽への関心・意欲・態度)
- 歌詞の内容や曲想を味わって曲にふさわしい音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。(音楽表現の創意工夫)
- 歌詞の内容や曲想を生かした、曲にふさわしい音楽表現をするために必要な発声、言葉の発音、呼吸法などの技能を身に付けている。(音楽表現の技能)
- 「交響曲第5番ハ短調」の音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解し、根拠をもって批評することで、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。(鑑賞の能力)

3 主な〔共通事項〕

- (7) 音色, リズム, 旋律, テクスチャ, 形式, 構成

4 題材設定にあたって

(1) 題材について

教材の「交響曲第5番ハ短調」(ベートーヴェン作曲)は、1808年、ベートーヴェンが38歳のときに完成した曲である。曲は全体的に、「このように運命は罪をたたく」とベートーヴェン自身が語ったとされる有名な動機によって、統一感が与えられている。第1楽章は、この動機を使用したハ短調の第1主題と、なめらかな曲想の第2主題によって、構成されたソナタ形式となっている。ソナタ形式は、交響曲はもとより、ピアノやヴァイオリンなど多くの器楽曲で用いられている形式であるため、今後の音楽鑑賞の発展にもつながっていくと考える。またこの曲は、ベートーヴェンの音楽家としての生涯や管弦楽曲の魅力など、指導内容を豊富に含む教材である。第1次では、前半部分と後半部分で曲想が変化する歌唱教材「夢の世界を」(芙龍明子作詞, 橋本祥路作曲)に取り組み、曲想の変化をわかりやすく捉えさせたい。

(2) 生徒の実態

生徒の実態調査をしたところ、以下のような結果であった。平成28年4月18日 調査人数34人

- | | |
|---|---|
| 1 | 音楽の授業において、曲を鑑賞することは好きですか。
そう思う (22人) あまりそう思わない (5人) そう思わない (7人) |
| 2 | 1のように思うのは、どうしてですか。
○ 好きな理由
・色々な曲を聴けるから (10人) ・感情が豊かになるから (5人) ・色々な感想を思いつくから (2人)
・作曲者の気持ちがわかるから (2人) ・落ち着くから (2人) ・曲の背景を考えるのが好きだから (1人)
○ 苦手な理由
・曲について、言葉で表すのが難しいから (5人) ・自分で歌ったり演奏したりする方が楽しいから (1人)
・飽きてしまうから (1人) |
| 3 | 鑑賞するときに意識して聴いている要素はどれですか。(複数回答可)
強弱 (26人) リズム (22人) 速度 (19人) 音色 (17人) 構成 (8人) 旋律 (7人) テクスチャ (3人) 形式 (2人) |
| 4 | オーケストラについて知っていることを書いてください。
・指揮者がいる・たくさん的人数で演奏する・昔の人が作った有名な曲を演奏している
・弦楽器、管楽器、打楽器で演奏される・オペラなどではオーケストラピットで演奏する
・ソロがある・長い時間演奏している |
| 5 | ベートーヴェンについて知っていることを書いてください。
・作曲をした人・名前が有名・「運命」を作った人・ドイツで生まれた・耳が聞こえなくなった |

本学級の生徒は、音楽の学習に意欲的である。特に歌唱の活動では、主体的にパート練習を行い、楽曲に取り組んでいる。しかし、実態調査から、約3分の1の生徒が、曲を鑑賞することに苦手意識をもっているということがわかった。その理由として、自分が感じ取ったことを心の中で思ったり、言葉で伝えたり、書き表したりすることが苦手であることが挙げられる。また、鑑賞する際に強弱やリズムなどのわかりやすい要素を意識して聴くことができているが、今回意識させたい要素の中から旋律や形式、構成などはあまり意識していないことがわかった。

(3) 指導について

本題材は、学習指導要領の2内容(1)A表現(1)アと(2)B鑑賞(1)アを受け、音楽を形づくっている要素から、音色、リズム、旋律、形式、構成に注目し、曲想の変化を感じ取って歌ったり、ベートーヴェンの生き方や音楽に対する思いに注目しながら、批評文を作成したりすることで、曲のよさや美しさを味わって聴くことをねらいとしている。「交響曲第5番ハ短調」におけるオーケストラの響き、動機や主題の反復や変化、旋律の組み合わせ方、ソナタ形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受することで、音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解させ、根拠をもって批評することで、曲のよさや美しさを味わって聴く力を育てたい。

(4) 学校教育指導方針の努力事項・具現化のための取組

努力事項「指導計画の改善」の具現化のため、〔共通事項〕より形式、構成をよりどころとして、表現と鑑賞の相互関連を図った題材の指導計画を作成した。また、努力事項「多様な音や音楽を感じ取り、創意工夫して表現したり味わって聴いたりする力の育成」の具現化のため、音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解し、根拠をもって音楽を批評することで、音楽のよさや美しさを味わって鑑賞したい。

4 題材の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
<p>① 歌詞の内容や曲想に関心をもち、曲にふさわしい音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>② オーケストラの響き、動機や主題の反復や変化、旋律の組み合わせ方、ソナタ形式と曲想とのかかわりに関心をもち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	<p>① 斉唱と混声三部合唱のテクスチュア、二部形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら、歌詞の内容や曲想を味わって曲にふさわしい音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて 思いや意図をもっている。</p>	<p>① 歌詞の内容や曲想を生かした、曲にふさわしい音楽表現をするために必要な発声、言葉の発音、呼吸法などの技能を身に付けて歌っている。</p>	<p>① オーケストラの響き、動機や主題の反復や変化、旋律の組み合わせ方、ソナタ形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じている。</p> <p>② 知覚・感受しながら、音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解し、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。</p>

5 指導と評価の計画（5時間扱い）

次	ねらい	主な学習活動	〔共通事項〕	題材の評価規準と評価方法
第1次 (2)	<p>○ 歌詞の内容や曲想に注目して聴くことで、曲想が変化する様子をつかむ。</p> <p>○ 曲にふさわしい音楽表現を工夫して歌うことができる。</p>	<p>・「夢の世界を」について、曲想が変化するところで変化カードを挙げながら鑑賞する。</p> <p>・AとBの歌詞の内容や曲想を感じ取る。</p> <p>・歌詞の内容や曲想を生かした、曲にふさわしい音楽表現を工夫して歌う。</p>	<p>・テクスチュア</p> <p>・形式</p> <p>・構成</p>	<p>アー① 観察 ワークシート</p> <p>イー① ワークシート</p> <p>ウー① 観察</p>
第2次 (2) 本時は 第2時	<p>○ オーケストラの響き、動機や主題の反復や変化、旋律の組み合わせ方、ソナタ形式などを知覚することができる。</p> <p>○ 曲想の変化を感じ取って鑑賞することができる。</p>	<p>・楽曲を初めて聴いた感想をワークシートに記入し、意見交流を行い、お互いの感想を共有する。</p> <p>・作曲者について理解する。</p> <p>・楽曲の動機のリズムを手で打ったり、楽譜を見たりして、確認する。</p> <p>・2つの主題、ソナタ形式について理解する。</p> <p>・鑑賞しながら曲想が変化するところで変化カードを挙げ、曲の雰囲気を感じ取る。</p> <p>・動機や主題などを総譜で確認しながら楽曲を鑑賞し、オーケストラの響きや曲想の変化など、感じたことをグループで紹介し合い、理解を深める。</p>	<p>・音色</p> <p>・リズム</p> <p>・旋律</p> <p>・形式</p> <p>・構成</p>	<p>アー② 観察 ワークシート</p> <p>エー① ワークシート</p>
第3次 (1)	<p>○ 根拠をもって批評することで、楽曲のよさや美しさを味わって聴くことができる。</p>	<p>・批評文を書く。</p> <p>・グループで批評文を交流する。</p> <p>・他者の考えを聞き、自己の考えを深めていく。</p>	<p>・音色</p> <p>・リズム</p> <p>・旋律</p> <p>・形式</p> <p>・構成</p>	<p>エー② 観察 発表 ワークシート</p>

6 本時の学習

(1) 目 標

○ 第1楽章の動機や主題の反復や変化、オーケストラの響きをもとに、曲の構成を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じ受している。
(鑑賞の能力)

(2) 準備・資料

教科書、ワークシート、楽譜、感じシート、タイマー、テレビ、DVD

(3) 展 開

☆十分満足できる生徒への援助 ★努力を要する生徒への援助

時間(分)	学習活動・内容	教師の援助・評価 (◎は評価規準・方法)
3	1 前時の振り返りを行う。 ・楽曲を聴いた感想 ・動機について ・主題について ・作曲者について	・動機や主題を聴きながら振り返るようにする。 ・作曲者についてまとめたものを掲示する。
2	2 本時の学習課題をつかみ、活動の流れを確認する。 動機や主題の反復や変化、オーケストラの響きに注目して聴き、曲想の変化を感じ取ろう。	・動機や主題、オーケストラの響きなどに注目して聴くことで、ソナタ形式とその曲想の変化を感じ取る活動であると説明する。 ・活動の流れを説明し、掲示する。
10	3 曲想が変化するところで変化カードを挙げ、曲の雰囲気を感じ取る。	・2種類の変化カードを配布し、曲想が変化するところで挙げさせる。このカードは、暖色のカードが「明るい・激しい」、寒色のカードが「暗い・静か」を表すことを伝える。 ・カードを挙げる際は、しっかりと手を伸ばし、周囲にもわかるようにさせる。
25	4 動機や主題、オーケストラの響きに注目して聴き、曲想の変化を感じ取る。 (1) 各グループを聴き取る要素ごとにグループ分けする。 A「動機の変化を聴き取る(旋律・リズム)」 B「音の高低(音色)や強弱を聴き取る」 C「作曲者の心の変化を聴き取る」 (2) 提示部・展開部・再現部・コーダを区切って聴き、気が付いたことをワークシートに記入する。 (3) 聴き取ったことをその場で共有する。 (4) 元のグループへと戻り、聴き取ってきたことを発表し合い、ワークシートの表を完成させる。	★聴き取ることが苦手な生徒は、音の高低や強弱など、はっきりとしていてわかりやすい項目を選択するように助言する。 ・スムーズに移動ができるように誘導する。 ・動機の変化を聴き取る際には、ただ「繰り返されている」とするのではなく、どのように繰り返されているのかなど、詳しく記入するように説明する。 ・作曲者の心の変化を聴き取る際には、作曲者の人生や音楽に対する思いを考えながら聴くように説明する。 ・音の高低や強弱を聴き取る際には、音色や旋律に注目して聴き取るように説明する。また、ただ「高い」「低い」とするのではなく、もう一言加えるように伝える。 ・感じシートを活用するように助言する。 ☆どの項目においても、ベートーヴェンの人生を踏まえて聴くように助言する。 ・聴き取ったことをグループで共有する際、記入したワークシートを見せるだけにしてしまうのではなく、しっかりと自分の言葉で発表するように伝える。 ・発表の際は、グループ全員に聞こえるように、大きな声ではっきりと伝えるように助言する。
10	5 曲想の変化から感じ取ったことを自分の言葉でまとめる。	◎ 第1楽章の動機や主題の反復や変化、オーケストラの響きをもとに、曲の構成を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じ受している。 (鑑賞の能力、観察・ワークシート) ・上手にまとめられた生徒に発表させ、全体で共有し、次時へとつなげる。

平成28年度 第36回
県南ブロック音楽研究協議会 石岡市大会

共に感じ 共に親しみながら 心むすぶ音楽を求めて

～味わおう 伝えよう みんなで音楽～



期日 平成28年 11月25日(金)

会場 石岡市立南小学校

主催 茨城県教育研究会音楽教育研究部
同 県南ブロック音楽教育研究部
石岡市教育研究会

開 催 要 項

- 1 主 催 茨城県教育研究会音楽教育研究部
 県南ブロック音楽教育研究部
 石岡市教育研究会音楽研究教育研究部
- 2 期 日 平成28年11月25日(金)
- 3 会 場 石岡市立南小学校(小中学校授業, 分科会会場)
 石岡市南台四丁目1番1号 TEL 0299-26-2850 FAX 0299-36-3960
- 4 研究主題 「共に感じ, 共に楽しみながら 心むすぶ音楽をもとめて」
 ～味わおう 伝えよう みんなで音楽～
- 5 助言者 小学校 板谷 亜由美 先生 (つくば市立洞峰学園立二の宮小学校 教頭)
 中学校 石川 真裕美 先生 (茨城県教育研修センター 教科教育課 指導主事)
- 6 日 程

部 会	受 付	公 開 授 業	移 動 ・ 休 憩	分 科 会
小学校部会	13:10～13:40	13:45～14:30	14:30～14:50	14:50～16:20
中学校部会	13:10～13:35	13:40～14:30	14:30～14:50	14:50～16:20

7 公開授業

学 校 名	学 年	題 材 ・ 内 容	指 導 者	場 所
南小学校	第2学年	いろいろな音を楽しもう	小野寺陽子	多目的室
南小学校	第5学年	曲想を味わおう	江沼 篤夫	音楽室
石岡中学校	第1学年	アルトリコーダーで表現を工夫して演奏しよう	萩原明日美	体育館

8 分科会

分科会名	助言者	司会者	世話役	記録者	場所
小学校部会	板谷 亜由美 先生 (つくば市立洞峰学園 二の宮小学校教頭)	川嶋 圭介 (江戸崎小)	岡田 弘美 (向台小)	青木 桂子 (石岡東小)	多目的室
中学校部会	石川 真裕美 先生 (茨城県教育研修セン ター指導主事)	相島 美穂子 (下稻吉中)	中泉 宗春 (阿見中)	白鳥 睦子 (園部中)	体育館

共に感じ 共に楽しみながら 心むすぶ音楽を求めて

～ 味わおう 伝えよう みんなで音楽 ～

生涯を通して音楽を愛好する心情をもつ子ども

味わおう

伝えよう

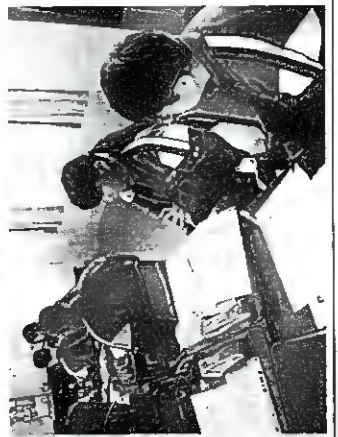
みんなで音楽

音楽的な直接・間接体験（知覚・感受）

音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みの知覚・感受



音楽を形づくっている要素や要素同士の関連の知覚・感受



音を伴う言語活動（思考・判断）

思いや意図・解釈・価値判断など

互いに認め合いながら、音楽活動のよさを伝え合う



協働的な音楽活動（表現）

音楽の価値を仲間と共有し高め合う



仲間と共に音楽をつくる



共通事項

指導者 石岡市立南小学校 小野寺 陽子
場 所 多目的室

- 1 題材名 いろいろな音を楽しもう
- 2 題材の目標 楽器の音色の違いを感じ取り、演奏の仕方を工夫して選んだリズムで問いと答えを生かしながら音楽をつくる。

3 題材について

(1) 題材観

本題材は、学習指導要領 A 表現 (2) 器楽ウの「身近な楽器に親しみ、音色に気を付けて簡単なリズムや旋律を演奏すること。」、また (3) 音楽づくりアの「声や身の回りの音のおもしろさに気付けて音遊びをすること。」を主な指導事項としている。

本題材は、身近な楽器を使って出す様々な音やそれらの音色の違いを捉えて、表現の仕方を工夫する学習である。友だちと打楽器を使って話をするような活動を通して、音色を聴き比べたり、打楽器に合うリズムを選んだりしながら、共通事項である問いと答えの音楽の仕組みを生かした音楽づくりの活動を展開していける題材である。

(2) 児童の実態 (平成28年6月8日実施 男子20人、女子15人、計35人)

- | | |
|---|--|
| 1 | 音楽の授業でどんな活動が好きですか。(1人2つまで選ぶ) |
| | 歌うこと 17人 楽器を演奏すること 15人 リズム打ち 15人
聴くこと 10人 音楽をつくること 9人 |
| 2 | どのくらい楽譜を読むことができますか。(1つ選ぶ) |
| | 読める 12人 音の高さだけはわかる 9人 リズムはわかる 8人
全く読めない 6人 |
| 3 | 音楽を聴くとき、どのようなことに気をつけますか。(複数回答) |
| | リズム 24人 強さや弱さ 24人 歌詞 20人 ひびき 20人
音の高さ 20人 旋律 8人 |
| 4 | 音楽づくりをやってみたいと思いますか。(1つ選ぶ) |
| | 思う 20人 少し思う 10人 あまり思わない 4人 思わない 1人 |

本学級は、明るく元気な児童が多い。新しい楽曲に触れる際は、自然と体を揺らしたり手拍子をしたり、拍子を考えて指揮を始めたりと、リズムにのって意欲的に活動に取り組んでいる。質問紙の結果から、リズムや強さ、弱さに気を付けて音楽を聴くと答えた児童が多かったが、実際に楽器を扱うと、拍の流れが感じ取れなかったり音の鳴らし方が単調だったりする児童が見られた。以上から、音色の違いや強弱のおもしろさに気を付けて、音遊びを楽しめるような活動を体験させたい。

(3) 指導観

本題材では、自分で選んだ打楽器とリズムを使って、友だちと楽器で会話をする活動を行う。お気に入りの打楽器を持つことで、楽しみながら、自然に問いと答えの学習を進めていくようにする。慣れてきたら強弱や音の出し方を工夫することで、より豊かな音遊びを楽しむことを目指したい。自分の出す音と相手の出す音をしっかりと聴くことも大切にしながら、即興的な音遊びの活動を通して、一つ一つの楽器のもつ音色を味わい、それらを組み合わせる音の特徴やおもしろさに気付くように学習を進めていきたい。

4 題材の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
① いろいろな打楽器の音色に気を付けて音楽を聴く学習に進んで取り組もうとしている。	① 打楽器の音色やリズムを聴き取り、音色の違いやリズムの組み合わせによって生まれる面白さを感じ取って、問	① 打楽器の音色の違いを生かして、問いと答えのリズムをつくっている。 ② 音色の違いを生かして音を組み合わせ	① いろいろな打楽器の音色を聴き取り、その働きが生み出す面白さや演奏のよさを感じ取りながら音色の違いに
② 打楽器の音色に興			

<p>味・関心をもち、音色に気を付けて音を探る学習に進んで取り組もうとしている。</p> <p>③ 楽器の面白さを感じ取って歌ったり、リズム打ちをしたりする学習に進んで取り組もうとしている。</p> <p>④ 擬声語に興味・関心をもち、情景を想像したり、声の出し方を工夫したりして歌う学習に進んで取り組もうとしている。</p>	<p>いと答えの仕方や音の出し方を工夫している。</p> <p>② 打楽器の音色や拍の流れを聴き取り、音色の違いや音の組み合わせによって生まれる面白さを感じ取りながら、音の出し方や組み合わせを工夫し、どのように表現するかについて思いをもっている。</p>	<p>せ、それらの重なりを聴きながら、拍の流れを感じ取って演奏している。</p> <p>③ 歌詞の擬声語を生かしながら、情景に合った表現で自分の歌声や発音に気を付けて歌っている。</p>	<p>気を付けて聴いている。</p>
---	---	---	--------------------

5 学習活動と評価の計画（8時間扱い）

次	ねらい	主な学習活動	〔共通事項〕	評価規準
第一次 (1)	・いろいろな音の中から好きな音をさがす。	<ul style="list-style-type: none"> ○楽曲全体の気分を感じ取って聴く。 ○打楽器の音色に気を付けて音楽を聴く。 ○打楽器の音色の違いに気付き、そのよさや面白さを感じ取って聴く。 	音色	アー① エー①
第二次 (2) 本時 第2時	・がっきの音のくみあわせを楽しんで音遊びをする。	<ul style="list-style-type: none"> ○音色の違いに気付いて打楽器を選ぶ。 ○教科書の「リズム」を打ち、気に入ったリズムを選ぶ。 ○呼びかける役と答える役になって音遊びをする。 ○音遊びを聴き合い、面白さやよさに気付く。 	音色 リズム 強弱 拍の流れ 問いと答え	アー② イー① ウー①
第三次 (3)	・いろいろな音をかさねて楽しむ。	<ul style="list-style-type: none"> ○指導用CDを聴いて曲の感じをつかんで歌う。 ○拍の流れを感じ取ってリズム打ちをする。 ○音色の特徴を生かして、音の組み合わせや重ね方を工夫する。 ○楽器の音色の違いに気を付けながら、歌に合わせて演奏する。 	リズム 拍の流れ 音色 強弱	アー③ イー② ウー②
第四次 (2)	・いろいろな虫たちがいないようすをおもいうかべながらうたう。	<ul style="list-style-type: none"> ○擬声語に興味関心をもって歌う。 ○歌詞の情景や気持ちを想像しながら、歌声や発音に気を付けて歌う。 	音色 旋律 強弱	アー④ ウー③

6 本時の学習（第二次、第2時）

(1) 目標





音楽の仕組み（問いと答え）を生かして、楽器の音を組み合わせる音遊びをする。

(2) 準備・資料

オルガン リズム譜 児童用ホワイトボード メトロノーム

打楽器（カスタネット、すず、トライアングル、ウッドブロック、タンブリン、クラベス）

(3) 展開

時	学習内容・学習活動	指導上の留意点・評価規準（評価方法）
0	1 学習の雰囲気をつくる。 ・簡単なリズム打ちをする。 ・既習曲でリズム遊びをする。	・明るく、楽しい雰囲気づくりをする。 ・教師がウッドブロックで拍を打ち、それに合わせて手拍子でリズム遊びをする。
5	2 本時のめあてを知る。 がっきをつかって おはなしをしよう (1) 呼びかける役と答える役について確かめる。 (2) 楽器の音の出し方について確かめる。	・教師が最初に見本を見せ、「おはなし」の意味が捉えやすいよう配慮する。 ・前時までには、使用する打楽器とリズムパターンを選んでおく。 ・拍ののってリズムを打つことを意識させる。 ・楽器の音色に気を付けて、音の強弱や音の出し方を工夫してリズムを打つように助言する。
10	3 選んだリズムで、呼びかける役と答える役になって音遊びをする。 (1) 二人一組で行う。 (2) 強弱や音の出し方を工夫する。 例) 1  2  3  4 	・メトロノームを使い、拍の流れを感じ取りながら、話をするようにリズムを打ち合う。 ・呼びかける役と答える役は、途中で交代してもよいことにする。 ・即興的なリズムパターンが出てきたときは、新しいマグネットシートを渡し、ホワイトボードに貼るようにする。 ・二人一組のかけ合いを4回ずつ繰り返し、工夫したことをワークシートに書き込む。 評価規準 イー① 打楽器の音色やリズムを聴き取り、音色の違いやリズムの組み合わせによって生まれるおもしろさを感じ取って、問いと答えの仕方や音の出し方を工夫しているか。（観察）
35	4 全体で音遊びを聴き合う。 ・音の強弱やリズムの組み合わせを工夫した組の音遊びを聴き合う。	・音色のよさや違い、リズムの組み合わせによって生み出されるおもしろさを感じ取ったり、音の出し方の工夫に気付いたりするように、聴くポイントを最初に示す。
40	5 本時のまとめをする。 ・音遊びをして気付いたことや、おもしろかったことを発表する。	・本時の活動に対し賞賛し、次時への意欲を持たせる。

(4) 本時の観点別評価の生かし方

【Cと判断される状況への働きかけ】

・リズム譜を確認し、友だちや教師のまねをするよう助言する。

【Aと判断する子どもの状況】

・拍の流れを感じ取りながら、強弱や楽器の音色の工夫をしている。

第5学年1組 音楽科学習指導案

指導者 石岡市立南小学校 江沼 篤夫
場所 音楽室

- 1 題材名 曲想を味わおう
- 2 題材の目標
- ・曲想とその変化を感じ取りながら、楽曲の構造に気を付けて聴く。
 - ・言葉の感じや曲想にふさわしい表現を工夫して、思いや意図をもって演奏できるようにする。

3 題材について

(1) 題材観

本題材は、学習指導要領解説音楽編（平成20年8月 文部科学省）のA表現（1）イの「歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。」を主な指導事項としている。

子どもたちは、これまで様々な活動を通して、旋律の音の上がり下がりやリズム、速度や強弱、和声の響きや調、そして旋律やリズムの反復や問いと答え、変化、音楽の縦と横の関係などについて学習してきた。ここでは、これらのいろいろな音楽を形づくっている要素が一体となって醸し出す曲想を味わいながら、音楽を想像豊かに聴いたり、思いや意図をもって表現の仕方を工夫したりすることで、音楽的な感性を育んでいきたい。

また、教材として扱っている石岡市民の歌「石岡、わがふるさと」は、バラード調のゆったりとしたテンポで、どこか懐かしい感じのする旋律と石岡の地名や自然、おまつりのかけ声など、なじみの深い歌詞が織り込まれており、子どもたちにとっても親近感のもてる歌唱曲となっている。愛唱歌として歌い続けていって欲しい曲である。

(2) 児童の実態（平成28年10月12日実施 男子10人 女子17人 計27人）

- | | |
|---|--------------------------------------|
| 1 | あなたは、授業でどのようなことをするのが好きですか。（複数回答可） |
| | みんなで歌う 16人 一人で歌う 6人 リコーダーを吹く 9人 |
| | 合奏 22人 鑑賞 17人 |
| 2 | 音楽を聴くときに注目していることは何ですか。（複数回答可） |
| | リズム 26人 テンポ 13人 強弱 15人 音色 10人 響き 17人 |
| | 音の高低 13人 歌詞 17人 旋律 6人 |

本学級の児童は、明るく元気で、学校生活全般にとっても意欲的な児童が多い。音楽の授業も楽しみながら様々な活動に取り組んでいる。

表現活動についてのアンケートからは、合唱や合奏などの表現活動を好んでいる児童が多いことが分かる。特にリズムに着目して聴いている児童が多い。一方で、旋律に着目している児童は少ないことが分かった。音楽を形作る3大要素の一つである旋律のもつ美しさや魅力を体感できるような授業を構成していきたい。

(3) 指導観

本研究のサブテーマ「味わおう 伝えよう みんなで音楽」を受けて、本題材では、歌詞の内容や語感、曲想等をもとに、曲のイメージに合う表現を工夫する。

繰り返し歌詞を読んだり、映像を観たりする活動を通して、子ども一人一人が曲のイメージを持ち、歌うときにそのイメージを基に表現の工夫ができるよう配慮していきたい。

また、音楽を特徴づけている諸要素を感じ取り、班の友達と話し合いながら創っていく作業を通して、音楽の仕組みを理解したり表現の幅を広げたりできるようにしたい。なお、その際には、「旋律」、「速度」、「強弱」、「フレーズ」などの共通事項が自然に出てくるように指導したい。

さらに、工夫した表現を発表し、友達に伝えることで、自分たちで工夫した表現を伝えることの楽しさ、おもしろさを味わえるように努めたい。

4 題材の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
<p>①楽曲の構造を理解して聴く学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>②歌詞と旋律やリズム、強弱とのかかわりに興味・関心を持ち、曲想にふさわしい表現で歌う学習に意欲的に取り組もうとしている。</p>	<p>①リズムや旋律の反復、強弱の変化を聞き取り、それらと歌詞の語感とのかかわり合いを感じ取りながら、曲想を生かした表現を工夫し、発声や強弱を付けた歌い方について思いや意図をもっている。</p>	<p>①語感を生かしながら歌詞の内容や曲想に合う歌い方で表情豊かに歌っている。</p>	<p>①リズムや主な旋律の反復、変化などを聞き取り、それらが速度や強弱とのかかわり合って生み出すよさや面白さを感じ取りながら、楽曲の構造を理解して聴いている。</p>

5 活動と評価の計画（8時間扱い）

次	ねらい	主な学習活動	[共通事項]	評価規準
第一次 (2)	・曲想の移り変わりを感じ取りながら聴く。	「威風堂々第1番」 ○曲想とその変化を感じ取って聴く。 ○2つの旋律の曲想の違いや、曲想が変化する面白さを感じ取る。	リズム 速度 旋律 強弱 反復	アー② エー①
第二次 (3) 本時は 第2時	・言葉の感じや曲想を生かして歌う。	「石岡、わがふるさと」 ○旋律を覚える。 ○歌詞を読み、歌詞の表す情景を想像し、言葉の繰り返しや旋律の特徴を感じ取って歌う。	旋律 強弱 速度 フレーズ	イー① ウー①
第三次 (3)	・曲想を生かして合奏する。	「キリマンジャロ」 ○曲想の変化に合った表現の仕方を工夫する。 ○拍の流れにのり、音の重なりを感じながら自分の音と友達の音を調和させて、合奏を楽しむ。	リズム 反復 音の重なり 問いと答え	アー① イー①

6 本時の学習（第二次、第2時）

(1) 目標

「石岡、わがふるさと」の曲のイメージを話し合い、曲想に合う表現の仕方を工夫する。

(2) 準備・資料

テレビ (DVD), 楽譜の拡大図 (5枚), ホワイトボード (5台), メトロノーム (5台), オルガン (5台), 付箋紙, 学習シート

(3) 展開

時	学習内容・学習活動	指導上の留意点・評価規準（評価方法）
0	1 「石岡 わがふるさと」を斉唱し、学習の雰囲気をつくる。	・石岡の風景を写した DVD を見せ、イメージをふくらませながら歌うようにさせたい。
5	2 本時のめあてと学習の手順を知る。	・前時に考えた一人一人のイメージを書いた付箋紙を貼り、それを見ながら話し合うようにさせる。
10	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">自分たちの「石岡、わがふるさと」を創ろう</div> 3 5つの班ごとに、曲想を生かした表現方法を話し合う。 [話し合いの進め方（班活動）] (1) どんなイメージの歌なのかを話し合う。 (2) イメージを具現化するための表現の工夫をする。 ・テンポ ・強弱 ・曲の山 ・その他 《予想されるイメージ》 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ・やさしく ・おだやかに ・明るく ・なつかしい感じで ・のびのびと等々 </div>	・学習の手順は、すべての児童が分かるようポイントを押さえて説明する。 ・班長は話し合いの進行役を務めるのと同時にオルガンで音取りもする。 ・決まったことをグループごとの拡大譜に書き込んでいくとともに、各自の学習シートにも記入する。 ・書き込み方は、音楽の記号、言葉、独自に創った記号など、記入しやすい方法でよいことを助言する。 ・表現方法を話し合う際、必ず歌って確認するようにさせる。また、そうしようと思った根拠も考えさせる。 ・教師は、グループ間を回り、イメージに合う表現方法を適宜アドバイスをする。
30	4 班ごとに工夫した歌を中間発表をする。 [発表のしかた] ・イメージ ・テンポ ・工夫した点、またはこれから工夫したいと思っている点 ・歌の発表 ↓ ・感想発表（発表する班以外の児童）	・曲に対してのイメージとそれを表現するために、どんな工夫をしたのかを話してから歌うように助言する。 ・聴いている児童に対しては、基にしたイメージが表現できているか、ポイントを押さえて聴くよう助言する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 評価規準 イー① 旋律の特徴や歌詞のイメージを生かして表現の工夫をしている。 （発言・観察、演奏） </div>
40	5 本時のまとめをする。	・本時の活動に対し賞賛をし、次時への意欲をもたせる。
45	・学習シートに本時の振り返りを書く。	

(4) 本時の観点別評価の生かし方

<p>【Cと判断される状況への働きかけ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班の友達の工夫した内容を一緒に歌ってみるにより、考えさせるようにする。 <p>【Aと判断する子どもの状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽曲に対する自分の考えや思いをもち、どのような表現方法が良いのかを考え、積極的に話し合い活動に参加している。

指導者 石岡市立石岡中学校 萩原 明日美

場所 石岡市立南小学校 体育館

題材名 アルトリコーダーで表現を工夫して演奏しよう

題材の目標 曲想を感じ取り，表現を工夫して演奏する。

題材について

(1) 題材観

本題材は，学習指導要領A表現(2)器楽アの「曲想を感じ取り，表現を工夫して演奏すること。」また，イの「楽器の特徴をとらえ，基礎的な奏法を身に付けて演奏すること。」を主な指導事項としている。

本題材は，前の題材で学習をした様々な奏法を使って，曲想に合わせて表現を工夫することによって，より表情豊かに演奏できるようにすることを目指している。

今回の授業では，「聖者の行進」「アマリリス」を選択させて演奏する。どの曲も，ポルタート奏法とスタッカート奏法等を使い分けることで，楽曲の表現に生かすことができる。また，簡単な二重奏曲となっているため，アルトリコーダーの音色のよさや美しいハーモニーを体感することもできる。「聖者の行進」は，教科書に掲載されている曲で，左手のみで演奏することができ，アルトリコーダー経験の浅い第1学年で取り組むのにふさわしい楽曲である。「アマリリス」は，フランス民謡で文部省唱歌にもなっていた曲である。旋律の音域は一点ハから二点ハであるが，二重奏に編曲し，下のパートは左手のみで取り組むことができる。

(2) 生徒の実態 (平成28年9月21日実施 男子18人，女子18人，計36人実施)

1	リコーダーを演奏するのは楽しいですか。			
	楽しい	20人	どちらかといえば楽しくない	3人
	どちらかといえば楽しい	11人	楽しくない	1人
2	リコーダーを使っているいろいろな曲が吹けるようになりたいですか。			
	そう思う	26人	どちらかといえばそう思わない	3人
	どちらかといえばそう思う	5人	思わない	1人
3	曲想から自分なりのイメージをふくらませて，リコーダーを吹いていますか。			
	イメージをもっている	12人	イメージをもっていない	23人

本学級の生徒は明るく活発であり，音楽活動に意欲的に取り組むことができる。ほとんどの生徒がリコーダーの演奏を楽しみにしており，いろいろな曲が吹けるようになりたいと思う生徒が31人と大変多いことから，関心の高さが分かる。一方で，リコーダーの演奏をするときに，曲想を感じ取り，イメージをもって演奏している生徒は12人と少なく，楽譜どおりに演奏するところまでしか意識ができていないことが分かる。

(3) 指導観

楽曲の演奏を通して，曲想に合わせて奏法を使い分けたり，強弱を変化させたりすることによって，生み出される特質や雰囲気に変化することに気づかせ，豊かな表現に結びつくことを実感させたい。音色や奏法を統一していくことがより美しい演奏につながることを気付かせ，技能の向上にも目的意識をもって意欲的に取り組めるようにしたい。

グループに分かれてアンサンブルを行うことで，音楽に対する自己のイメージや思いや意図などを他者と伝え合い，仲間とともに創意工夫して表現する喜びを味わわせたい。また，様々な考えがあることに気づき，一人一人の音楽に対する価値意識を広げたい。

4 題材の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
<p>① 曲想に関心をもち、音楽表現を工夫して演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>② アルトリコーダーの奏法や音色に関心をもち、基礎的な奏法で演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	<p>① 旋律や音色を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、曲想を感じ取って音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。</p> <p>② 旋律や音色を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、アルトリコーダーの奏法を捉えて表現の仕方を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>① 曲想を生かした音楽表現をするために必要な姿勢や身体の使い方、奏法などの技能を身に付けて演奏している。</p> <p>② アルトリコーダーの奏法や音色を捉えた音楽表現をするために必要な、基礎的な奏法を身に付けて演奏している。</p>

5 学習活動と評価の計画（4時間扱い）

次	ねらい	主な学習活動	〔共通事項〕	評価規準
第一次 (1)	・正しい姿勢や構え方を身に付け、2種類の奏法で演奏する。	○姿勢や構え方、タンギングの仕方などを復習する。 ○ポルタート奏法、スタッカート奏法で演奏する。	音色 旋律	アー② ワークシート ウー②
第二次 (3) 本時 第2時	<p>・曲想を感じ取り、二つの奏法を使い分けてアーティキュレーションを工夫する。</p> <p>・アルトリコーダーの奏法を捉え、グループで曲想にふさわしい表現を工夫する。</p> <p>・曲想を生かした音楽表現をするために必要な奏法、呼吸法などの技能を身に付けて演奏する。</p>	<p>○課題曲の様々な演奏を聴き、曲想に関心をもち。</p> <p>○曲想に合わせて、ポルタート奏法とスタッカート奏法等を使い分けて、アーティキュレーションを工夫する。</p> <p>○グループに分かれ、奏法や強弱などの表現を工夫して、アンサンブルをする。</p> <p>○グループごとに考えた表現をするために必要な奏法などの技能を追究し、選択曲を発表し合う。</p>	音色 旋律 テクスチャ 構成	<p>アー①</p> <p>イー①</p> <p>イー②</p> <p>ウー①</p>

5 本時の指導（第二次、第2時）

(1) 目標

アルトリコーダーの奏法を捉え、グループで曲想にふさわしい表現を工夫する。

(2) 準備・資料

ワークシート 拡大運指表 グループ用拡大ワークシート アーティキュレーションカード

(3)展 開

時	学習内容と主な学習活動	指導上の留意点・評価規準（評価方法）
0	1 前時の振り返りをする。 (1)構え方, 姿勢, タンギングを確認する。 (2)様々な奏法で音階練習をする。	・音階練習を行いながら, 基本の姿勢を確認する。 ・様々なアーティキュレーションで音階練習をする。
5	2 本時の学習課題を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">曲のイメージにふさわしい表現を工夫しよう。</div>	・グループは, リコーダーが得意な生徒と苦手な生徒が混ざるようにする。 ・楽譜に, スタッカート奏法はスタッカートを, ポルタート奏法はテヌートを書き込むようにし, グループで決定したものを拡大譜に記入する。
20	3 音楽表現を工夫する。 (1)表現を工夫する方法を考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">奏法</div> ・スタッカート奏法 ・ポルタート奏法 等 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">音楽の要素</div> 音色 強弱 速度 等	・工夫にはどんな方法があるかを全体で確認することで, 活動の指針を示す。 ・前時に個人で決めた奏法をもとに, 実際に演奏して試行錯誤しながら変更していくように助言する。 ・掛け合いの部分, ユニゾンの部分, 和声的な重なり部分の違いを感じ取り, それぞれの箇所合った表現になるようにする。
	(2)グループに分かれ, 工夫を考える。 ・息の強さ ・タンギング ・強弱 (演奏人数) ・バランス (主旋律, 和声的な重なり)	・工夫点, 理由, どのように演奏したいかポイントを押さえてから活動するよう助言する。 ・早く進んでいるグループには, 息の強さやタンギングなどを合わせるように助言する。なかなか進まないグループには, フレーズごとに表現の工夫を見直すよう助言する。
	(3)グループで工夫した表現するために必要な奏法や音色を追究し, 練習する。	・ユニゾンで演奏するか, 二部合奏で演奏するかは, グループごとに選択できるようにする。また, 演奏が苦手な生徒は, グループでの役割をもたせ, よさを出せるように支援する。
	(4)特に工夫した部分を発表し, 気づいたことを伝え合う。	・練習が進んでいるグループを選び発表させ, 様々な工夫の仕方があることを共有する。 ・工夫が聴き手に伝わるためには, 音色やタンギングなどの基礎的な技能の向上や, 奏法の徹底を図ることも必要であることに気づかせ, 次時への意欲につなげる。
40	5 本時の学習のまとめをする。 ・学習カードへの記入	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">評価規準 イー② 旋律や音色を知覚し, それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら, アルトリコーダーの奏法を捉えて表現の仕方を工夫し, どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。(観察・ワークシート)</div>
45		・次回は発表会を行うことを確認する。

4) 本時の観点別評価の生かし方

【C と判断する子どもへの働きかけ】

・いくつかの奏法を使い分けた例を書いたカードを用意しておき, フレーズごとに決めるようにする。

【A と判断する子どもの状況】

・グループの意図を共有しながら, アルトリコーダーの奏法や音色の特徴を生かして, 楽曲にふさわしい表現を工夫して演奏している。

平成28年度 県西ブロック
音楽科授業研究会

「共に感じ 共に楽しみながら
心むすぶ音楽を求めて」
～ 感じよう 伝えよう 深めよう ～



期 日 平成28年11月29日(火)
会 場 結城市立結城小学校
結城市立上山川小学校
結城市立結城南中学校

ごあいさつ

茨城県教育研究会音楽教育研究部県西ブロック音楽教育研究部長 齊藤 隆一郎

平成28年度県西ブロック音楽教育研究部授業研究会が、結城市教育委員会及び結城市教育研究会のご後援をいただき開催できますこと、誠にありがたく関係者の皆様に対し感謝の気持ちで一杯でございます。また、本授業研究会の開催が、今後の県西地区における音楽教育に、有意義な研究成果として貢献できるよう、講師として、茨城県教育庁学校教育部義務教育課指導主事 川野康子先生、つくば市立洞峰学園二の宮小学校教頭(元茨城県教育庁義務教育課指導主事)板谷亜由美先生、常陸大宮市立大宮中学校教頭(元茨城県教育庁学校教育部義務教育課指導主事)岡部正徳先生をお招きすることができ、大変心強く感じております。

さて、子どもたちが各教科等を学ぶ意義は、各教科等において身に付ける三つの資質・能力で整理されております。すなわち、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性等」です。特に、音楽科における学びは、「知性」と「感性」の両方を働かせて対象や事象を捉えることであり、「知性」だけでは捉えられないことを、身体を通して、「知性」と「感性」を融合させながら捉えていくこと、これが他教科以上に担っている音楽科の特徴です。今後、音楽科が学校教育により寄与していくためには、音楽科ならではの特徴、視点、思考の枠組みを、不断の研究により理解を深め、新しい意味や価値を創造していくことが求められています。

そこで、結城市音楽教育研究部では、茨城県音楽教育研究部が新たに設定した新テーマ「共に感じ 共に楽しみながら 心むすぶ音楽を求めて」を受け、研究の方向性を示すサブテーマとして、「感じよう 伝えよう 深めよう」を掲げて2年間の研究を推進してきました。実際には、各部ごとに「中心課題」を設け、その共通の留意点として「ねらいやゴールを明確にする」「魅力ある教材を選択する」「題材で取り扱う共通事項を絞る」と、分かりやすい目標を示しています。特に今年度は、一層テーマに迫るため、「適切な目標設定」「教材の特徴分析」「互いの思いや意図を伝え合い深め合う場」の充実を期して全力を傾注し、今日を迎えました。この2年間、さまざまな工夫や努力を積み重ねてきた結城市音楽教育研究部に対し、心から敬意を表します。研究の成果を発揮する本日の授業では、音楽科の特徴である「知性」と「感性」の一体化による学びが活発に展開され、テーマに迫るすばらしい研究成果が発揮されることでしょう。

最後に、ご支援・ご協力をいただきました結城市教育委員会及び結城市教育研究会の皆様、授業を公開していただきます結城市立結城小学校、結城市立上山川小学校、結城市立結城南中学校の各校長先生及び各授業者の先生、並びに各教職員の皆様に対し厚くお礼を申し上げ、あいさつといたします。

大会要項

1 研究主題 共に感じ 共に楽しみながら 心むすぶ音楽を求めて
～ 感じよう 伝えよう 深めよう ～

2 講師

- (1) 小学校低学年部会 茨城県教育庁学校教育部義務教育課指導主事 川野 康子 先生
- (2) 小学校高学年部会 つくば市立洞峰学園二の宮小学校教頭 板谷亜由美 先生
(元茨城県教育庁義務教育課指導主事)
- (3) 中学校部会 常陸大宮市立大宮中学校教頭 岡部 正徳 先生
(前茨城県教育庁学校教育部義務教育課指導主事)

3 日程及び会場

分科会	会場校	受付時間	公開授業	分科会
小学校低学年部会	結城市立結城小学校	13:00～13:20	13:30～14:15	14:30～16:00
小学校高学年部会	結城市立上山川小学校	13:00～13:20	13:30～14:15	14:30～16:00
中学校部会	結城市立結城南中学校	13:00～13:15	13:25～14:15	14:30～16:00

4 公開授業

学校名	学年	題材名	指導者
結城小学校	1年	ようすをおんがくであらわそう	野澤 寛美
上山川小学校	5年	豊かな表現を求めて	上野佐知子
結城南中学校	3年	郷土の民謡を受け継ごう	鬼澤和佳子

5 分科会

分科会	講師	司会者	記録者	世話係
小学校低学年部会	川野 康子先生	長峯寺 透 (岩井中)	狩谷 惇美 (坂戸小)	栗原 美穂 (石下西中)
小学校高学年部会	板谷亜由美先生	橋本 博音 (仁連小)	高橋美穂子 (宗道小)	木村美由紀 (水海道中)
中学校部会	岡部 正徳先生	飯泉 廉 (下館西中)	宮渕真佐子 (境一中)	上原 玉絵 (八千代一中)

研究の視点

研究主題 共に感じ 共に楽しみながら 心むすぶ音楽を求めて

— 感じよう 伝えよう 深めよう —

結城市音楽教育研究部では、茨城県音楽教育研究部の新テーマ「共に感じ 共に楽しみながら 心むすぶ音楽を求めて」を受けるとともに、さらに「感じよう 伝えよう 深めよう」をサブテーマとして設定し、2か年の研究に取り組んできた。

このサブテーマは、本市音楽教育推進の方向性を示す観点として、①歌詞の内容や曲想を感じ取る、②思いや意図をもって表現を工夫する、③交流や協働をとおして心情・感性を一層深める、を重要視し設定したものである。

研究は、初年度に、小学校低学年の部で「音楽を特徴付けている要素を感じ取り、思いをもって表現する力」、小学校高学年の部で「音楽を特徴付けている要素を生かし、思いや意図をもって表現する力」、中学校で「音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を感じ取り、構成を工夫しながら表現する力」の育成を中心課題とし、その際の留意点として、①題材全体を見通し、ねらいやゴールを明確にすること、②音楽的に魅力ある教材を選択すること、③題材で取り扱う〔共通事項〕を絞り込むこと、を掲げて授業研究を重ねた。

その成果と課題を分析した結果、テーマを実現するためのポイントとなるのは、①1単位時間の授業のねらいを明確にすること、②教材の特徴を生かした学習活動を設定すること、③児童生徒の主体的・協働的な活動の充実を図ること、の3点であろうと考えた。

そこで今年度は、この3つのポイントを押さえるために、特に、学習活動をとおして何を学ぶかという「適切な目標設定」と、学習活動そのものを左右する「教材の特徴分析」に注力するとともに、「互いの思いや意図を伝え合い、深め合う場」の充実を目指して研究を進めている。

以上を踏まえ、本時は、小学校低学年の部で「おおきなかぶ」、小学校高学年の部で「あすという日が」、中学校で「結城囃子」という、それぞれ魅力的な特徴をもった教材を取り上げ、それらの特徴を存分に生かしながら主体的・協働的な学習活動を展開することによって、研究主題に迫ることを目指している。

研究推進の経過

	月 日	内 容
平成 27 年 度	5/ 1	音楽教育研究部員研修会：本年度活動計画について 県西ブロック音楽科授業研究会の計画・組織について
	8/ 4	結城市教育研究会夏季研修講座音楽研究部会：提案発表 結城南中学校 鬼澤 和佳子 「音楽の構造的側面の知覚を通し豊かさや美しさを感じ取らせる指導の在り方」 講師 結城市立上山川小学校 巻島 法子 教頭先生
	8/ 7	音楽教育研究部員研修会：授業研究会指導案について 講義「これからの音楽科授業づくり」 講師 教育研修センター教科教育課指導主事 石川 真裕美 先生
	12/ 8	授業研究会(低学年の部) 結城西小(1年) 西村 真理 「ほしのおんがくをつくろう」 講師 教育研修センター教科教育課指導主事 石川 真裕美 先生
	12/ 8	授業研究会(高学年の部) 上山川小(5年) 野口 環 「豊かな表現を求めて」 講師 教育研修センター教科教育課指導主事 石川 真裕美 先生
	12/ 8	授業研究会(中学校の部) 結城中(1年) 長峯寺 透 「楽しいリズム曲をつくろう」 講師 教育研修センター教科教育課指導主事 石川 真裕美 先生
	12/ 8	授業研究会 研究協議 講師 教育研修センター教科教育課指導主事 石川 真裕美 先生
平成 28 年 度	5/ 2	音楽教育研究部員研修会：県西ブロック音楽科授業研究会の計画・組織について
	7/13	音楽教育研究部員研修会：研究発表会に向けての授業内容検討
	8/ 3	音楽教育研究部員研修会：指導案検討会 講義「これからの音楽教育について」 講師 教育研修センター教科教育課指導主事 石川 真裕美 先生
	8/10	結城市教育研究会夏季研修講座音楽研究部会：指導案検討会 各担当での話し合い
	8/24	音楽教育研究部員研修会：指導案検討会（高学年の部，中学校の部）
	8/29	音楽教育研究部員研修会：指導案検討会（低学年の部）
	11/ 8	授業研究会（高学年の部） 山川小（6年） 斎藤 純江「豊かな表現を求めて」
	11/ 9	授業研究会（低学年の部） 結城小（1年） 野澤 寛美「ようすをおんがくであらわそう」
	11/24	授業研究会（中学校の部） 結城南中（3年） 鬼澤 和佳子「郷土の民謡を受け継ごう」
	11/28	平成28年度県西ブロック音楽科授業研究会準備
11/29	平成28年度県西ブロック音楽科授業研究会	

1 題材名 ようすをおんがくであらわそう

2 題材の目標

音楽を形づくっている要素をもとに、楽曲の気分を感じ取ったり、情景や気持ちを想像したりし、思いをもって表現を工夫する。

3 題材設定の意図

(1) 題材観

本題材では、小学校学習指導要領A表現(1)「イ 歌詞の表す情景や気持ちを想像したり、楽曲の気分を感じ取ったりし、思いをもって歌うこと。」、B鑑賞(1)「イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取って聴くこと。」、および〔共通事項〕のうち問いと答え、反復などを重点的に扱う。教材としては、鑑賞教材に「おどるこねこ」(ルイ・アンダソン作曲)「おもちゃのへいたい」(レオン・イエッセル作曲)、歌唱・器楽教材として「おもちゃのチャチャチャ」(野坂昭如作詞/越部信義作曲)「おおきなかぶ」(名村宏作詞/越部信義作曲)を取り上げる。どの曲も感覚的に親しみやすく、1年生の児童にも情景や気持ちを想像しやすい曲である。

これまでの学習では、いろいろな曲に親しむ中で、拍の流れにのって歌ったり、体を動かしたり、リズム表現を楽しんだりしてきた。本題材では、想像したり、感じ取ったりしたことを、音楽を形づくっている要素と結び付け、イメージに合った表現の工夫へつなげていきたいと考え、本題材を設定した。

(2) 児童の実態(男子17人 女子14人 計31人)

(平成28年9月2日)

① 音楽の学習で楽しいこと。(複数回答)

歌うこと 16人 楽器を演奏すること 18人 音楽をつくること 13人

音楽を聴くこと(音楽に合わせて体を動かす活動も含む) 19人

② 曲を聴いて音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取ることができる。

(サンサーンス作曲 動物の謝肉祭より「かめ」)

音楽を形づくっている要素と感じたことを書いた 13人

音楽を形づくっている要素のみを書いた 7人

感じたことのみを書いた 9人

書けなかった 2人

本学級の児童は、身体活動や交流活動を取り入れた授業を行ったことで、音楽の学習に積極的に取り組むようになってきている。アンケートの結果でも、「歌うこと」「楽器を演奏すること」「音楽を聴くこと」については半数以上の児童が楽しいと答えている。しかし、「音楽をつくる」ことが楽しいと答えた児童は半数に満たなかった。これは、4分音符と4分休符、8分音符でリズムづくりをした際に、難しさや窮屈さを感じたからだと思われる。また、音楽を形づくっている要素と感じたことを結び付けることができた児童は13人と、半数に満たなかった。

そこで、本題材においては、1学期の国語科で学習した「おおきなかぶ」の音楽劇を行い、楽しみながら音楽づくりに取り組める学習を展開する。音楽を形づくっている要素に目を向けさせ、自分のイメージに合った表現の工夫ができるような指導をしていく。

(3) 指導観

指導に当たっては、まず「おどるこねこ」と「おもちゃのへいたい」を鑑賞する。曲の雰囲気を感じ取って情景を想像し、友達と伝え合う。その際に、なぜそう感じたのか理由も発表させることで、音楽を形づくっている要素に目を向けさせる。

次に、「おもちゃのチャチャチャ」では、行進しながら曲を聴いたり、曲に合わせて手拍子や楽器でリズムを打ったり、歌詞に合わせて体を動かしたりしながら歌い、曲に合った表現をする楽しさを味わわせる。

最後に「おおきなかぶ」では、思いをもって表現を工夫する活動をする。第1次で感じ取った音楽を形づくっている要素を児童から引き出し、表現を工夫する手掛かりとする。自分の思いを友達と伝え合ったり、様々な表現の工夫を試したりして、表現を深める学習を展開する。

また、今回児童たちが作りあげた「おおきなかぶ」の音楽劇を、学年発表会で他クラスに発表することを伝え、目的意識をもたせて音楽づくりに取り組ませていく。

4 題材の評価規準及び学習活動における具体的評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
①こねこの様子を想像しながら、進んで聴こうとしている。 ②おもちゃの様子を想像しながら、進んで歌ったりリズム打ちをしたりしようとしている。 ③範唱を聴き、歌詞唱に進んで取り組もうとしている。	①歌詞の表す情景を思い浮かべ、どのように表すかについて自分の考えや願いをもっている。 ②かぶを抜く時の様子や気持ちを、強弱やリズムなどの工夫でどのように表すかについて、自分の考えや願いをもって工夫している。	①楽曲の気分に合った表現で演奏している。 ②友達の演奏を聴きながら、自分の音を合わせて合奏をしている。	①問いと答えなどの音楽を形づくっている要素に気付き、そのよさや面白さを感じ取って聴いている。 ②「おもちゃのへいたい」の特徴を聴き取り、音楽を形づくっている要素のかかわり合いを、体を動かしながら感じ取って聴いている。

5 学習と評価の計画（8時間取り扱い）

次	ねらい	主な学習活動	[共通事項]	具体的評価規準
第1次 (2)	○音楽を形づくっている要素をもとに、情景を思い浮かべて聴く。	・「おどるこねこ」を聴き、どんな様子が想像する。 ・「おもちゃのへいたい」を聴きながら、曲に合わせて体を動かす活動を行う。		アー① エー① エー②
第2次 (6) 本時は 第4時	○歌詞や楽曲の気分を生かして表現を工夫し演奏する。	・「おもちゃのチャチャチャ」をおもちゃの気分になって、手拍子や楽器でリズムを打ちながら歌う。 ・歌詞に合った表現を工夫する。 ・「おおきなかぶ」を聴いて、登場人物の様子を想像し、身体表現をしながら歌う。 ・かぶを抜く時の掛け声を考える。 ・かぶが抜ける時の掛け声を、グループで話し合っつくる。 ・つくった音楽劇をクラスで披露し合い、音楽表現を楽しむ。	拍の流れ 強弱 リズム 反復 問いと答え	アー② イー① アー③ ウー① イー② イー② ウー②

6 本時の学習

(1) ねらい

強弱やリズムなどをもとにして、かぶを抜く時の登場人物の様子や気持ちを表す掛け声の表現を工夫する。

(2) 準備・資料

範唱用CD、拡大楽譜、ワークシート、ワークシート拡大、掛け声ヒントカード、音のポケット（音楽の要素を示したカード）、音楽のもと掛け図、振り返りカード、挿絵、お面、かぶの模型

(3) 学習の展開

学習内容と主な学習活動	教師の働きかけ（◆学習活動における具体的評価規準）
1 既習曲を歌う。 「おもちゃのチャチャチャ」 「おおきなかぶ」	○一緒に体を動かしたり手拍子を打ったりしながら既習曲を歌うことで、楽しく学習に取り組む雰囲気づくりや学習の意欲付けを図る。 ○「おおきなかぶ」を歌う時、本時に工夫する所を伝え、学習課題につなげる。

2 本時の学習課題を確認する。

ようすやきもちをかけごえであらわそう。

(工夫の観点)

- ・つよく・よわく・みじかく・ながく
- ・はやく・おそく・のぼす・きる
- ・やさしく・するどく

3 かぶを抜く時の登場人物の様子や気持ちを掛け声で工夫する。

(1) 自分の表現を考える。

(ワークシート例)

じんぶつ : おじいさん
 あらわしたいこと : ちからをこめてひっぱる
 ようす

かけごえとくふう :

えん	やら	こっ	こ	どっ	こい	せ	!
つよく							するどくきる

(2) グループで発表し合い、友達の工夫のよさや、改善点を伝え合う。

- ・〇〇さんのは、伸ばした掛け声があって、おじいさんが大変そうな様子が伝わってきていいと思いました。
- ・△△さんのはもっと強弱をつけてはきはきと声を出すとさらにいいと思います。」

4 代表児童の発表を聴く。

5 本時の学習のまとめをし、次時の学習内容を確認する。

- ・学習カードに記入し、今日の自分の活動の振り返りをする。

- 例「うんとこしょ、どっこいしょ」の強弱やリズムを変えたパターンを示し、意欲を高める。
- 例からどのような工夫があったか問い掛け、音のポケットから、リズムや強弱などの音楽の要素を掲示する。
- 具体的な工夫の観点を児童の言葉から掲示していく。

- 児童が場面を想像できるように、挿絵を掲示する。
- 表したいことが決まったらワークシートに記入するよう指示する。
- 掛け声の言葉が浮かんでこない児童には、ヒントカードを渡し、表現できるようにする。
- 掲示した工夫の観点を参考にさせ、自分の思いを掛け声で表現できるようにする。

- グループを人間グループと動物グループの2つに分け、表現の仕方について十分に交流できるようにする。

- 順番を決めておき、発表がスムーズに行えるようにする。

- 自分の表現を直したり、試したりする時間を設け、より自分の思いを表現できるようにする。

- ◆かぶを抜く時の様子や気持ちを、強弱やリズムなどの工夫でどのように表すかについて、自分の考えや願いをもって工夫している。(イー②)

- 音楽を形づくっている要素を生かして表現できている児童を意図的に選んで発表させる。

- 聴き手側に対しては、掲示した(工夫の観点)に着目して聴くよう指示し、全体交流につなげる。

- 自分が考えた掛け声を音楽に合わせて演奏し、本時のまとめとする。

- 工夫したこと、できるようになったこと、もっとやりたいことの3つの視点を与え、本時を振り返らせる。

- 次時は、本時につくった表現を生かして、かぶが抜ける時の掛け声をグループごとにつくり、音楽劇を完成させることを知らせ、意欲付けにする。

7 観点別評価の生かし方

評価規準	評価方法・Cと判断される状況への働きかけ・Aと判断するキーワード
[音楽表現の創意工夫] イー② かぶを抜く時の様子や気持ちを、強弱やリズムなどの工夫でどのように表すかについて、自分の考えや願いをもって工夫している。	[評価方法] ・ワークシート、グループでの話合い、発表の様子等から思考・判断の過程を見取る。 [Cと判断される状況への働きかけ] ・寄り添って一緒に演奏したり助言したりすることで、自分の思いを表現できるようにする。 [Aと判断するキーワード] ・よりよい表現を目指して試行錯誤する姿 ・音楽を形づくっている要素を基に工夫をしようとした発言や記述

1 題材名 豊かな表現を求めて

2 題材の目標

歌詞の内容や曲想を生かして、思いや意図をもって合唱する。

3 題材設定の意図

(1) 題材観

本題材では、小学校学習指導要領A 表現(1)「イ 歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。」及び[共通事項]のうち「拍の流れやフレーズ、旋律や強弱などの音楽を特徴付けている要素」を扱う。教材としては、歌唱教材として「あすという日が」(山本瓊子作詞/八木澤教司作曲)を取り上げる。本教材は、東日本大震災後に避難所やさまざまな場面で合唱曲として紹介され、被災された方々や日本中の人々に勇気を与えた歌として、全国で広く歌われている曲である。大切な人のための、そして自分のための応援歌である。「一生懸命生きること」のすばらしさを伝える歌詞は、エネルギーに満ちている。また、平易な言葉で表現されているため、歌詞の内容が理解しやすく、児童が自分の生活体験に重ね合わせて考え、心を込めて歌う合唱曲として適した教材である。

児童はこれまでに、歌詞の内容や曲想にふさわしい表現を工夫する学習に取り組んできている。そこで、この題材では、歌詞に込められた思いを感じ取り、聴き手に自分の思いや意図を明確に伝えるには、どのように表現したらよいかを工夫させる活動を展開する。その際に、拍の流れやフレーズ、旋律や歌詞を手がかりにして、友達と練り上げる活動を充実させることで豊かな表現につなげたいと考え、本題材を設定した。

(2) 児童の実態 (男子12人 女子13人 計25人)

(平成28年7月19日)

①	曲を聴いたり、歌ったりする時に、その情景をイメージしていますか？							
	いつもしている	1人	時々している	13人				
	あまりしていない	7人	していない	4人				
②	歌を歌う時に、意識していることは、どんなことですか？(複数回答)							
	きれいな声	15人	リズム	13人	気持ちを込める	6人	速度や強弱	5人
	大きな声	4人	姿勢	4人	音程	3人	歌詞の意味	2人
	顔の表情	1人						
③	聴いている人に、自分の思いを伝えるためにはどうすればよいですか？(文で自由記述)							
	気持ちを込める		言葉の意味をよく理解する		強調したいところを大きく歌う			
	イメージしながら歌う		表情をつけて歌う		きれいな声で合わせる			
	わからない							

本学級の児童は、市の音楽会に向けて合唱の練習を積んできた経験から、きれいな声で歌おうと意識している。また、リズムや速度などの音楽を特徴付けている要素に関する意識も高い。しかし、曲の情景をイメージしている児童は、全体の半数程度である。聴いている人に自分の思いを伝えるためにはどうすればよいか考えている児童もいるが、「わからない」と答えている児童もいる。そこで、歌詞の内容にじっくりと向き合わせたり、音楽を形づくっている要素を手がかりとして表現を工夫する活動を十分に行わせたりしていく必要があると考えられる。

(3) 指導観

指導に当たっては、国語科で「あすという日が」の歌詞を何度も朗読したり、言葉から広がるイメージを絵に描いて情景を可視化したりする学習を行う。そして、一つ一つの言葉に込められた思いを感じ取らせ、自分たちなりに解釈させる。

次に、児童が友達と関わり合いながら主体的・協働的に活動する場を仕組んでいく。「この言葉には、こんな思いが込められているから、このように歌いたい。」「この言葉を強調するためにはこのような歌い方をするとよい。」というように、根拠をはっきりさせながら、自分たちの思いや意図をどう表現するか話し合わせる。そして、それぞれの思いや意図を伝え合ったり、互いの共通点や相違点を理解したりする活動を通して、いろいろな歌い方があることに気付かせたい。練習の際は考えたり試行錯誤を重ねたりしながら、より豊かな表現を求めて音楽活動が行えるようにしたい。以上の学習を通して、「感じよう 伝えよう 深めよう」を実現していきたい。

4 題材の評価規準及び学習活動における具体的評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
①呼吸や発声の仕方を工夫して、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う学習に、主体的に取り組もうとしている。 ②歌詞の内容や曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって演奏する学習に、主体的に取り組もうとしている。	①音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら歌詞の内容、曲想などを生かした表現を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えや願い、意図をもってしている。	①呼吸や発音の仕方に気を付けて曲想にふさわしい自然で無理のない、響きのある歌い方で歌っている。 ②歌詞の内容、曲想を生かした表現で歌っている。

5 学習と評価の計画（5時間取り扱い）

次	ねらい	主な学習活動	[共通事項]	具体的評価規準
第1次 (1)	拍の流れにのって、フレーズや旋律の流れ、パートの役割を生かして歌う。	・「あすという日が」の曲の感じをつかみ、歌詞の内容を考えながら、パートごとに音取りをし、合唱する。	拍の流れやフレーズ 旋律 強弱	アー① ウー①
第2次 (4) 本時は 第3時	歌詞の内容、曲想などを生かして、豊かな表現になるよう工夫しながら歌う。	・「あすという日が」のC部分をグループや全体で話し合いながら、表現を工夫する。 ・「あすという日が」のB部分をグループや全体で話し合いながら、表現を工夫する。 ・「あすという日が」のA部分をグループや全体で話し合いながら、表現を工夫する。 ・「あすという日が」を豊かな表現で二部合唱する。		アー② イー① ウー②

6 本時の学習

- (1) ねらい
A部分の歌詞の内容や曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって合唱する。
- (2) 準備・資料
拡大楽譜、個人用楽譜、歌詞カード、学習カード、キーボード、音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みを表す掲示物
- (3) 学習の展開

学習内容と主な学習活動	教師の働きかけ(◆学習活動における具体的評価規準)
1 本時の学習課題を確認する。 (1) 「あすという日が」の歌詞を全体で朗読する。 (2) 本時の学習課題について考える。	○一つ一つの言葉を大切に、歌詞の内容の情景を想像するための朗読であることを確認する。 ○自分たちで課題を解決するという意識を高めるために、A部分の中で特に本時の課題となるところはどこか児童に投げかける。
「あすという日が」のA部分の歌詞の内容や曲想を生かす工夫をしよう。	
2 歌詞の内容や曲想を生かして、豊かに表現するための工夫を全体で考える。 (1) 全体で合唱する。	○前時の児童の振り返りの中から、本時のねらいにつながる内容のものを読み上げ、本時の課題を意識させる。 ○B、C部分は、前時までに学習したことを生かして歌うよう助言する。

(2) 全体で話し合ったり、歌って試したりしながら練り上げる。

ア 「大きな木の実をささえてる」の部分
(予想される内容)

- ・「大きな木の実を～」から、アルトが主旋律に変わるから、安定感を出すように歌う。
- ・大きな木の実を細い枝が支えているのだから、一生懸命さを伝えるように「ささえてる」を力強く歌う。
- ・次のフレーズの「いま」につなげるために、少しずつ盛り上げて歌う。

イ 「ルルル～」の部分

(予想される内容)

- ・軽い感じがするので、風の音だと思う。木の上の方で風が吹いている感じで歌う。
- ・葉ずれの音を表現していると思うから、軽い音が響くような感じで歌う。
- ・主旋律に添える感じで歌う。
- ・主旋律をじゃましないよう優しく歌う。

3 話し合ったことを生かして、合唱する。

- (1) パート練習をする。
- (2) 全体で合唱する。

4 本時の学習を振り返り、次時の課題を確認する。

(1) 学習カードに活動の振り返りを書き、発表する。

(予想される内容)

- ・歌詞の内容からどんなふうに歌えばよいかを考え、友達と相談しながら何度も練習しました。歌詞にない「ルルル～」をどんなふうに歌うかを一生懸命考えたことで、自分たちの思いを込めて合唱できたと思います。

(2) 次時の課題を確認する。

○互いの考えを知るために、3人グループになって自由な雰囲気でも話し合わせる。

○話し合う際には、掲示物の「音楽のもと」にある音楽の用語を使うとよいことを助言する。

○グループで話し合ったことを、全体で確認する時間を設け、多くの意見を取り上げるようにする。

○児童から出された考えをホワイトボードに記録し、パート練習時の参考にできるようにしておく。

○歌詞にない「ルルル～」がソプラノのパートに出てくるが、「ルルル～」は何を表現しているのかと投げかけ、児童の考えを活性化させる。

○歌詞にない「ルルル～」の表現を工夫することで歌唱に深みが出ることを補足説明する。

○児童の意見を取り上げながら、常に音を出して試させたり、確かめさせたりするなど音楽活動と言語活動の往還が生まれるように仕組んでいく。

○話し合っただけで練り上げた部分を、パートリーダーを中心に繰り返し練習するよう指示し、自分たちの思いを込めた合唱にしていく楽しさを味わわせる。

○本時の学習で工夫した点を生かした合唱になるよう教師の指揮でまとめの合唱をさせ、よくなった点を称賛することで満足感をもたせる。

○合唱した後に、互いのパートのよかった所や、パート練習の成果が生かされていたか等の視点に立った感想を発表させる。

◆歌詞や曲想を生かした表現を工夫し、どのように歌うかについての思いや意図をもって合唱している。
(イー①)

○めあてに対する振り返りになるよう助言しながら個別指導し、意図的な指名に生かす。

○次時の課題は、全体を録音して聴き、更によくするための学習を行うことを伝える。

7 観点別評価の生かし方

評価規準	評価方法・Cと判断される状況への働きかけ・Aと判断するキーワード
<p>[音楽表現の創意工夫] イー① 「あすという日が」の歌詞の内容、曲想などを生かした表現を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えや願い、意図をもっている。</p>	<p>[評価方法] ・思考・判断の過程、ワークシート、グループでの話し合い、発表の様子等から見取る。</p> <p>[Cと判断される児童への働きかけ] ・情景の写真を見せて歌詞の内容をイメージさせたり、音楽の要素などのキーワードを示したりして、自分の思いをもてるようにする。</p> <p>[Aと判断するキーワード] ・よりよい表現を目指して試行錯誤する姿 ・工夫した理由を明確にした発言や記述</p>

1 題材名 郷土の民謡を受け継ごう

2 題材の目標

- (1) 民謡の発声や言葉の特性、郷土の伝統音楽の特徴などに関心を持ち、曲にふさわしい音楽表現を工夫して歌ったり鑑賞したりする学習に主体的に取り組む。
- (2) 民謡の発声や言葉の特性を理解して、それらを生かした曲にふさわしい音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつ。
- (3) 民謡の発声や言葉の特性を生かした曲にふさわしい音楽表現をするために必要な技能を身に付ける。
- (4) 郷土の伝統音楽の特徴から音楽の多様性を理解して、解釈したり価値を考えたりし、鑑賞する。

3 題材設定の意図

(1) 題材観

教育課程企画特別部会の論点整理（平成27年8月）において、音楽科における改訂の具体的な方向性として、「感性を働かせ、他者と協働しながら音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさや価値等を考えたりしていくこと、我が国や郷土の伝統音楽に親しみ、よさを一層味わえるようにしていくことや、音楽文化についての関心や理解を深めていくことについては、更なる充実が求められるところである」とされ、さらに次期改訂に向けて、「創造的に表現したり鑑賞したりする力の育成、生活や社会における音楽の働きや音楽文化に関する学習活動の充実等を図り、豊かな情操を養っていくことが求められる」と指摘されている。

こうしたことを踏まえ、郷土の民謡を通して我が国の伝統文化に対する興味・関心を高めるとともに、その味わいや特性を捉えることをねらいとして、本題材を設定した。郷土の音楽を教材として用いることは、音楽科の目標である「我が国の音楽文化に対する理解を深めること」につながってくる。今回教材として取り上げる「結城囃子」は、本市で受け継がれている民謡で、盆踊りには必ず歌われている。民謡は、労働や風習など生活の中から生まれ、人々の暮らしを支えてきた音楽であり、今の時代にも大切に受け継がれている。郷土の民謡について発声を工夫したり、三味線や太鼓の音色やリズムを体感したりしながら、その特性を捉えさせたいと考えている。

(2) 生徒の実態（男子15人 女子22人 計37人）

（平成28年9月16日）

① 普段の生活の中で民謡を歌うときはありますか。（理由は自由記述・複数回答）
はい 0人 いいえ 37人
・歌う機会がない 30人 ・遠い存在 5人 ・民謡の環境がない 12人
② 民謡の印象はどのようなものがありますか。（自由記述・複数回答）
・和 23人 ・日本の文化 22人 ・地味 15人 ・合唱の声と違う 10人
・盆踊り 10人 ・歌詞の意味がわからない 7人 ・ビブラートがすごい 7人
・古くさい 4人 ・お年寄りが歌う 3人 ・声が強い 1人

本学級の生徒は、歌唱や器楽活動に意欲的に取り組むことができる。自分の思いや意図などを積極的に伝えよう、発表しようとする活気に満ちた明るい学級である。生徒はこれまでに民謡について、小学校のときに「ソーラン節」、「会津磐梯山」、「こきりこ節」、「谷茶前」等にふれながら、旋律やリズムの特徴を生かして歌ったり、旋律をつくったりしてきた。しかし生徒への意識調査では、民謡の印象を「日本の大切な文化である」と認識しているにもかかわらず全生徒が「いいえ」と答え、その理由として「民謡を歌う機会がない」「特別な歌声なので遠い存在」「民謡の環境がない」ことを挙げている。中学1年生で学習した「ソーラン節」では、声を張って歌ったり、節回しを付けたりして歌うことに抵抗や恥ずかしさを感じている生徒が見られたが、CDの伴奏に合わせて歌うことができた。また、ソーラン節の音楽に合わせて、躍動的に踊るなど身体表現もできるようになった。

(3) 指導観

以上の実態を踏まえて、郷土の民謡「結城囃子」について、ゲストティーチャーによる生演奏を鑑賞し、発声の仕方や節回し等の特徴、言葉の特性（特に母音の響き）を中心に、歌い方の違いを感じ取らせたい。また、民謡にあった声ということを生徒自身が実際に歌いながら考えさせることを大切にしていく。その上で、どのような音色で歌えばいいのか、どのように身体を使えばその特徴が表現できるのかといったようなことを試行錯誤しながら、気付いていくような学習が展開できるよう指導していく。多感な中学生の時期に郷土の民謡を学習することにより、郷土や我が国が育んできた伝統や文化に立脚した広い視野と深い知識を持ち、個性や能力を生かしながら、社会の激しい変化の中でも何が重要かを主体的に判断できる生徒の育成につなげていきたい。

4 題材の評価規準及び学習活動における具体的評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
①民謡に応じた発声や言葉の特性と音楽の特徴、多様性に関心をもち、表現したり鑑賞したりする学習に主体的に取り組もうとしている。	①音楽を形づくっている要素を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じながら、民謡に応じた発声により、音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	①民謡に応じた発声や言葉の特性、曲想を生かした曲にふさわしい音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌ったり演奏したりしている。	①声の出し方による音色や特徴的なリズムや旋律の重なり方を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、音楽の多様性を理解して解釈したり価値を考えたりし、鑑賞している。

5 学習と評価の計画（4時間扱い）

次	ねらい	主な学習活動	〔共通事項〕	具体的評価規準
第1次 (1)	○民謡2曲を鑑賞したり、歌ったりして、声の出し方や歌い方の違いを感じ取ることができる。	・子守歌、谷茶前の歌詞の内容を理解し、音色やリズム、旋律装飾などから特徴を感じ取って表現する。また、それぞれの歌に応じた声の出し方などを工夫する。	音色 リズム 旋律	アー①
第2次 (2) 本時は 第2時	○郷土の民謡「結城囃子」を聴いて、歴史的背景や郷土の音楽文化について理解することができる。 ○「結城囃子」の特徴を理解して、聴き深めたり表現を工夫したりすることができる。	・「結城囃子」を取り上げ、由来や特徴、どのように受け継がれてきているかなどを知りその背景を理解しながら鑑賞する。 ・「結城囃子」の生演奏を鑑賞し、専門家と自分たちの声の出し方の違いや和楽器のリズムなどを感じ取り、鑑賞したり表現したりする。		エー① ウー①
第3次 (1)	○「結城囃子」の特徴やよさを伝えることができる。	・「結城囃子」の特徴を整理し、見どころ聴きどころを伝える生CMをグループで作成して、発表する。		イー① エー①

6 本時の学習

(1) ねらい

「結城囃子」の演奏から民謡の特徴を感じ取り、音楽の多様性を理解して表現したり聴き深めたりする。

(2) 準備・資料

教科書、ワークシート、学習カード、「結城囃子」に関する写真、実物投影機

(3) 学習の展開

学習内容と主な学習活動	教師の働きかけ（◆学習活動における具体的評価規準）
1 前時に録音した「結城囃子」を聴く。 2 本時の学習課題を確認する。	○本時のゲストティーチャーの演奏との比較に役立つよう、音色や節回しに着目して聴かせるようにする。 ○「結城囃子」の音色やリズム、節回し（旋律）の特徴を生かして演奏できているか、聴き合ったり、学び合ったりすることについて確認する。
「結城囃子」の特徴を感じ取りながら鑑賞したり歌ったりしよう。	
○キーワードとして「音色」「リズム」「節回し（旋律）」を示し、生徒への意識付けを図る。	

3 ゲストティーチャーの模範演奏を聴き、民謡の特徴に気付く。

(1) 自分たちの演奏との違いを感じ取る。

(予想される生徒の意見)

「地声に近い声」「こぶしがある」等

(2) 特徴的な部分について、歌詞カードの中に印を付けたり、母音を書いたりする。

(予想される生徒の記入例)

西は ^{にい}あ ^{にい}ひかり ^お

鬼怒の流れもエー

エーの音程の上がり下がりが
激しい

4 民謡の特徴を生かして「結城囃子」を歌う。

(1) ゲストティーチャーの発声を真似しながら歌う。

- ・ゆっくりしたテンポで、特徴(節回し)を生かして歌う。
- ・お囃子の練習をする。

(2) 和楽器の伴奏で歌う。

- ・歌を担当する班と踊りを担当する班の2班に分かれて、交替して表現する。

5 本時の学習を振り返り、次時の課題を確認する。

(1) 学習の振り返りをワークシートに記入する。

(2) 次時の学習課題を確認する。

○本時の学習課題の確認後、ゲストティーチャーに演奏しながら登場していただき、専門家による「結城囃子」を聴くことにより、音色や節回し等の違いを感じ取らせたい。

○ゲストティーチャーの演奏終了後、自分たちとの違いを発表することにより、キーワードの「音色」「リズム」「節回し」を意識させていきたい。

○必要に応じて、自分たちの演奏の録音を聴くことにより、さらにどのような違いがあるかを気付かせたい。

○音色は「地声」であったり、節回しは「母音」の響きが重要であるなど、民謡の特徴に気付かせるよう支援する。

○ゲストティーチャーによる「結城囃子」を聴いて、どの部分がどう違うのか、歌詞カードに印等を自由に記入させるようにする。

○特徴的な部分(節回しなど)で気付いたことは、実際に声を出して、生徒自身に確認させるようにする。

○いくつかのワークシートを実物投影機で紹介し、学級全体で、特徴的な部分についての理解を深める。

○特徴を書き込んだ歌詞カードを見ながら、ゲストティーチャーの真似をして、独特な節回しの部分を何回も繰り返し歌うことで、民謡の発声の特徴を習得できるように支援する。

○歌い手とお囃子の音色やリズムの違いを感じ取らせながら、表現の技能を身に付けさせる。

○お囃子独特の勢いのいい発声もできるように、教師も一緒に歌いながら指導する。

○一人一人が自分の役割を意識しながら活動しているか各グループの様子を観察しながら、必要に応じて支援する。

○楽しい雰囲気でするよう支援する。

◆民謡に応じた発声や言葉の特性、曲想を生かした曲にふさわしい音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌ったり演奏したりしている。(ウー①)

○「結城囃子」の演奏を通して、感じ取ったことを振り返るとともに、ゲストティーチャーからのアドバイスを聴くことにより、次時の意欲付けを図る。

○「結城囃子」の特徴を整理し、見どころ聴きどころを伝える生CMをグループで作成して、発表することに取り組む。

7 観点別評価の生かし方

評価規準	評価方法・Cと判断される状況への働きかけ・Aと判断するキーワード
[音楽表現の技能] ウー① 声の出し方による音色や特徴的なリズム、声や旋律の重なり方を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、音楽の多様性を理解して解釈したり価値を考えたりし、表現している。	[評価方法] ・観察、ワークシート、意見交換 [Cと判断される状況への働きかけ] ・音色の変化を聴き取れるよう声掛けしながら支援する。 ・ワークシートへの記入は、感銘を受けた所に印を付けさせる。 [Aと判断するキーワード] ・音色やリズム、旋律等の客観的な理由を明確にした発言や表現。 ・自分なりの感じ方や価値などについての積極的な姿勢。

第58回関東音楽教育研究会埼玉大会報告

常任幹事 栗本真樹子

伝わる音楽 ～音楽共有し、感性を豊かにする学びを通して～

1 期 日 平成28年11月11日（金）

2 会 場

<小学校4会場>

所沢市立北小学校 [歌唱][器楽]

所沢市並木小学校 [歌唱][鑑賞]

所沢市生涯学習推進センター [音楽づくり][鑑賞]

所沢市民文化センター ミューズ [音楽づくり]

<中学校2会場>

所沢市立中央中学校 [器楽][鑑賞]

所沢市民文化センター ミューズ [歌唱][創作]

3 大会主題

[視点1]音楽科における思考力・判断力・表現力を育む

[視点2]表現領域と鑑賞領域の関連を図る

[視点3]我が国の伝統的な音楽の指導の充実を図る

4 大会概要

大会開催に先立ち、前日の10日（木）18時からレセプションが開催され、各県から多くの参加者があった。埼玉県先生方による「旅立ちの日に」から始まり歌にあふれる会となった。

当日12日（金）は、あいにくの雨の中、各会場で授業が行われた。児童生徒たちは早々とバスで移動してきており、授業の準備に余念がなかった。中学校の創作の授業では、沖縄音階の特徴を生かして旋律をつくり、工夫して音楽を創作する内容であった。反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりを意識しながら、試行錯誤を繰り返す中で、大会主題[視点1]の音楽科における思考力・判断力・表現力を育むことをねらいとして授業が展開されていた。分科会は、活発な意見を交わす雰囲気の中で行われ、大変有意義であった。また、研究してきた過程や成果が十分に伝わってきた。

全体会は、アークホールで行われた。全体指導の信州大学の教授の齋藤忠彦先生の講話では、民族楽器などを実際に音をだしながらの説明があり、興味深く聞くことができた。研究演奏では、少人数の学校や、合同合唱団など、日頃の音楽活動の様子がうかがえる演奏が披露された。

編 集 後 記

県音楽教育研究部の新テーマ「共に親しみ 共に楽しみながら 心をむすぶ音楽を求めて」のもとに、各ブロックにおいて素晴らしい実践がなされ、たくさんの成果をあげることができました。これも、各郡市部長の先生方・研究推進にあたられた先生方のご努力の賜と深く感謝申し上げます。

今年度12月に次期学習指導要領実施に向けて、中央教育審議会としての答申が出されました。小学校は32年度から、中学は33年度から実施予定となっております。新テーマに沿って先生方が来年度以降も研究を進めて行くことにより、次期学習指導要領の求めている資質・能力を育成することができると考えております。それに向けて、より一層先生方一人一人の力を合わせる必要があるかと思われまます。

最後に、紀要の作成にあたりましては、関係の先生方からご支援・ご協力をいただきましたことに心から感謝いたします。

研究推進委員会事務局 尾 花 淳

編 集 茨城県教育研究会音楽教育研究部
代表者 仁 平 良 治

県音楽教育研究部事務局 井上 寛士
茨城大学教育学部附属中学校内
〒310-0056 水戸市文京1-3-32
T E L 029-221-5802
F A X 029-221-3387

研究推進委員会事務局 尾花 淳
ひたちなか市立外野小学校内
〒312-0053 ひたちなか市外野1-30-1
T E L 029-274-2851
F A X 029-274-6412